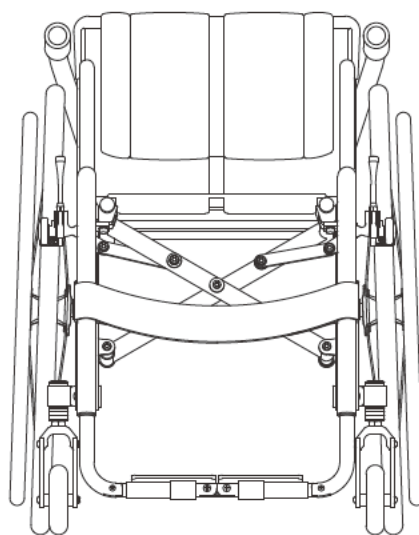
ZZR/SSR/GWXⅢ/SX/SR/Mシリーズ

取扱説明書

安全にご使用いただくために

*ご使用前に、本書を最後までよくお読みください。
*お子様が使用される場合は、保護者の方が本書をよくお読みになり、万全なご指導をお願いします。
*日頃の点検を怠ると、思わぬ事故や車いすの破損のおそれがあります。

はじめに

この度は、オーエックス製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書には、お買い上げいただいた製品が十分にその性能･機能を発揮できるように、また、安全にご使用いただけるように、正しい取扱い方法や点検･整備などについて必要な事柄を記載してあります。車いすの取扱いを十分ご存じの方も、この製品独自の装備･取扱いがありますので、必ずご使用前に本書をよくお読みになっていただき、正しく、安全で、快適にご使用ください。また、お子様が使用される場合は、保護者の方と一緒に本書をお読みいただき、保護者の方の万全なご指導をお願いします。なお、本書は紛失しないように大切に保管してください。

＊本書を紛失してしまった場合は再発行(有料)いたしますので販売店、または下記までご連絡ください。
＊お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に保管してください。
＊落丁･乱丁がありましたらお取替えいたしますので、下記までご連絡ください。

株式会社 オーエックスエンジニアリング 営業部 お客様ご相談窓口
〒265-0043　千葉市若葉区中田町2186-1
TEL043-228-0777/FAX043-228-3334

＜シリアルナンバー表示位置＞

アフターサービスについてのご相談に対し的確な判断･処置をするため、シリアルナンバーを正確にご連絡ください。なお、シリアルナンバーはメインフレーム右側及び保証書に貼られています。

あなたの車いすのシリアルナンバー

S/N:
OX GROUP - Made in JAPAN -

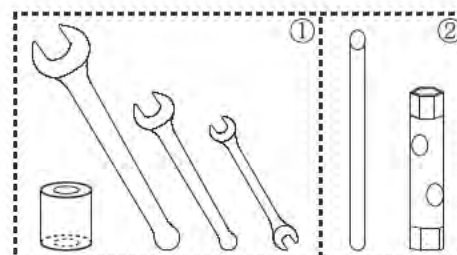
シリアルナンバーをご記入ください。

＊仕様変更や各機種共通仕様などにより図や内容が一部実物と異なる場合がありますのでご了承ください。

<付属品>※：車いすの仕様により一部付属品が異なります。

付属品は以下の通りですのでご確認ください。

本書

保証書 / 延長保証登録ハガキ

① （車軸タイプ「リアサスペンション」選択時）

- スパナレンチ3本
  13mm、22mm、8-10mm
- サスペンションブッシュ（ハード）1個
  工場出荷時、車いすには（ソフト）が装着されています。

② （キャスターフォーク「SFR2」選択時）

- ボックスレンチ（10-12mm）1セット

<各部の名称>※オプション（MX は標準装備）

もくじ

安全上のご注意

＜絵表示について＞

この取扱説明書では、この製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は、次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を指しています。

この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容及び物的損害のみの発生が想定される内容を指しています。

この表示は、増し締め箇所を示しています。
定期的に、緩みがないか点検・増し締めをしてください。

この表示は、注油箇所を示しています。
定期的（1か月に1度が目安）に、注油をしてください。

この表示の示す箇所には、絶対に潤滑油などの油分は塗布してはいけません。
万が一、油分などが付着した場合は、十分に脱脂してください。

⚠警告

自操用車いす以外の目的に使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。
この製品は、自操・平坦地専用です。補助動力装置などを取付けると保証の適用は除外されますので、取付けないでください。

壊れたままや異常がある時は使用しない。

事故や転倒などのおそれがあります。
故障や異常を見つけたら、車いすの使用をやめ販売店にご相談ください。

改造・分解しない。

改造すると安全性が低下して、部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させたりし、事故や転倒などのおそれがあります。
改造・分解は行わず、整備が必要な時は販売店にご相談ください。

調整作業に不安がある時は調整しない。

部品が破損したり、外れたり、車いすを損傷させて、事故や転倒などのおそれがあります。
不安な時は販売店にご相談ください。

不十分な調整状態で使用しない。

身体に無理をかけたり、褥瘡(じょくそう)などになるおそれがあります。
身体の状態に合わせて、正しい乗車姿勢が保て、麻痺部位と車いすの固い部分(フレームなど)が接触しないように調整します。

ホイールの装着後、固定を確認せずに使用しない。(P.16)

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。
必ず乗る前に点検してください。

乗車時はプッシュロッドには触れない。(P.16)

ホイールが外れて転倒などのおそれがあります。

車軸前後位置及び座面の高さは、身体の状態に合わせ無理をしない。(P.39～41)

転倒、転落のおそれがあります。

高温になる場所(炎天下の自動車内、暖房器具の近くなど)に置かない。

車いすが加熱され火災ややけどなどのおそれがあり、また、パンクなど部品を著しく傷めるおそれがあります。

車いすに巻き込まれやすい服装は避ける。

ホイールやキャスターなどに巻き込まれ、事故や転倒などのおそれがあります。

他の乗り物につかまりながらの移動はしない。

車いすを損傷させたり転倒・転落などのおそれがあります。

車いすを踏み台にしたり、車いすの上で立ち上がったりしない。

バランスを崩し転倒・転落のおそれがあります。

自動車の助手席及び後部座席に車いすを積み込む際は、確実に固定する。

自動車の運転中に車いすが動き、運転に支障をきたします。

⚠警告

フットレストに乗ったり、立ったりしない。

転倒や転落などのおそれがあります。また、車いすが損傷します。

掃除する時などに、タイヤやハンドリムにワックスなどの油分を付けない。

ワックスなどの油分が付くと、タイヤやハンドリムが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突・転倒などのおそれがあります。
ワックスなどの油分が付いた時には、十分脱脂してください。

雨などでハンドリムが水に濡れた時は、スピードを出さない。

ハンドリムが滑り、十分なスピード調整ができなくなり、事故や衝突・転倒などのおそれがあります。
水分が付いた時には、乾いた布で十分拭き取ってください。

下り坂などではスピードを出さない。

衝突や転倒などの事故をおこしやすく危険です。
ハンドリムとの摩擦によるやけどに注意し、ハンドリムでスピード調整してください。

急坂などの自操は避ける。

事故や転倒のおそれがあります。
介助してもらいましょう。

ブレーキはスピード調整に使用しない。

タイヤがロックし、事故や転倒のおそれがあります。ブレーキは駐停車時専用です。
ハンドリムを使ってスピード調整してください。

悪路・荒地には入らない。

事故や転倒などのおそれがあります。また、車いすを損傷させるおそれがあります。この製品を山岳・荒地・砂地・河原・水中・泥地などのオフロードでは使用しないでください。

凹凸の激しいところ（踏切、歩道などの段差や溝）は自操を避ける。

キャスターがはさまったり、車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

段差の飛び降りなど、乱暴・無理な取扱いをしない。

車いすを損傷させ、事故や転倒などのおそれがあります。

ペットを連れて使用しない。

ペットに車いすごと引きずられ、事故や転倒などのおそれがあります。

滑りやすいところは、自操を避ける。

降雪時、凍結路、工事用の鉄板やぬかるみ、軌道敷などはスリップしやすく事故や転倒などのおそれがあります。
介助してもらいましょう。

傘をさして使用しない。

レインコート・帽子などを使用してください。レインコートは、ホイールやキャスターに巻込まれる心配の無い物をご使用ください。

⚠警告

ブレーキをかけたまま走行しない。

ブレーキを損傷させ、事故や転落のおそれがあります。
ブレーキを解除してから走行しましょう。

未使用時の車いすに乳幼児を近づけない。

車いすを倒して下敷きになったり、けがのおそれがあります。

運動機能が低下するもの（アルコールや風邪薬など）を摂取した時は自操しない。

事故や転倒・転落などのおそれがあります。

ウイリー（キャスター上げ）は十分熟練するまで一人でやらない。

転倒のおそれがあります。

ハンドリム以外の回転部（タイヤ、スポークなど）に手を触れない。

手を巻き込まれるおそれがあります。

バックレストにバッグなどを取付ける場合、中身を入れすぎない。

後方へ転倒のおそれがあります。

エスカレーターは使用しない。

事故や転倒・転落のおそれがあります。

点検・整備をする。

点検・整備を怠ると、故障や事故などのおそれがあります。
日常の点検・整備、及び1か月に1回、各部の点検・整備をしてください。

車いすをこぎだす時、また走行中は周囲に気を付ける。

子供などが車いすの回転部・可動部に手などをはさまれるおそれがあります。

身体の状態に適したクッションを使用して車いすに着座する。

褥瘡（じょくそう）になるおそれがあります。

自動車の座席として使用しない。

車いすに移乗したまま、自動車の座席として車いすを固定して使用すると、車いすが破損し事故のおそれがあります。
自動車の座席、またはそれに耐えられる車いすに乗り換えてください。

夜間走行は避ける。

事故に遭うおそれがあります。
明るい道の利用、視認性の高い服装・機器などで自衛しましょう。

移乗時・停車時・未使用時はブレーキをかける。

車いすが動き出して落下・転落・転倒などのおそれがあります。
少しの間の停車、駐車でも必ずブレーキをかけてください。

道路交通法上車いすは歩行者です。歩道を通りましょう。

⚠注意

素足で使用しない。
けがのおそれがあります。
靴下をはき、底のある履き物をはいて使用してください。

タイヤをにぎって走行しない。
タイヤとサイドレザー、ブレーキ、アームレストの間に、指をはさむおそれがあります。
ハンドリムを使って走行してください。

屋外に放置しない。
気象変化や気温変化により、車いすが著しく劣化します。
必ず屋内に保管してください。

シートパイプをにぎって車いすを開かない。（P.15）
フレームとシートパイプの間に指をはさまれます。

サイドレザーと回転部（タイヤ、スポークなど）を接触させない。
サイドレザーが損傷します。
クッションの種類、サイズによっては、サイドレザーと回転部が接触するおそれがありますので、接触しないものを使用してください。

貴重品は車いすのポケットに入れない。
紛失・盗難のおそれがあります。

面ファスナーは、確実に貼付ける。
固定力が低下して、調整状態が変わります。また、A面（オス）が露出していると衣服を傷めるおそれがあります。

面ファスナーに付着したほこり・砂・糸くずなどは取除く。
固定力が低下して、調整状態が変わります。

＜安全に介助されるために＞

注意

走行時に回転部・可動部には触れさせない。

介助者がホイールなどに巻き込まれるおそれがあります。

アームレストが確実にボルト固定状態であることを確認する。

介助時にアームレストを持ち、アームレストが抜け、転倒・転落のおそれがあります。
アームレストの固定状態であることを確認後、介助を受けてください。
また、着脱式アームレストの場合は、アームレストを持って介助しないでください。

持つ位置を指定する。（P.22）

転倒・転落のおそれがあります。また、介助者がけがをするおそれがあります。

介助者がメインホイールの装着を行ったときは、必ずプッシュロッドが完全に戻っていることを自ら確認する。

ホイールが外れ事故や転倒のおそれがあります。
この取扱説明書を読んでいない方がホイールの着脱や車いすの開閉などの介助をする場合は、あなたがその都度、説明してください。

1章
総説

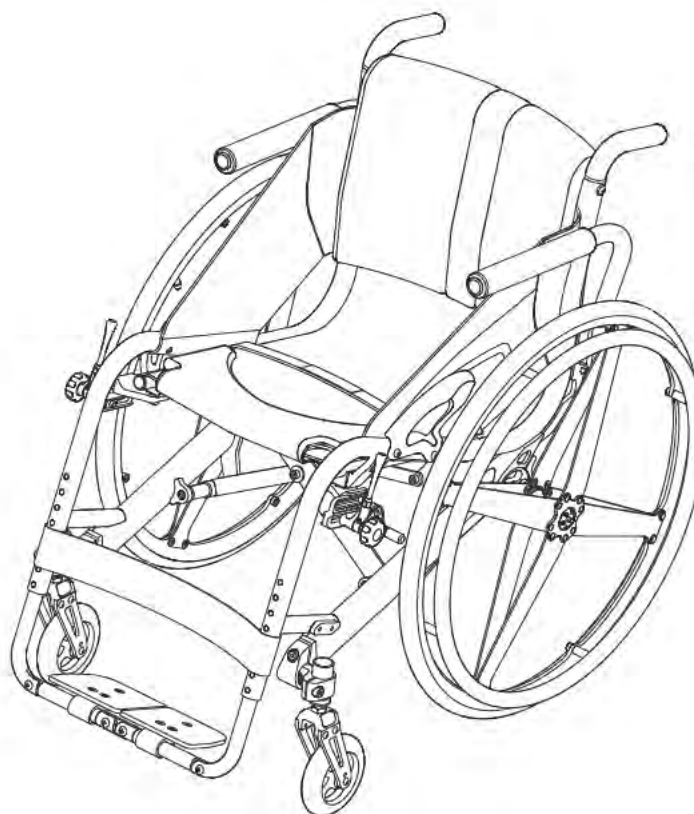
この章では、基本的な操作方法とお手入れや保管方法及び調整・点検について説明しています。

基本的な操作方法

お手入れについて

保管について

調整・点検について

調整可能な箇所

基本的な操作方法

○車いすのシート部にクッションを敷き、クッションに着座してください。
○足はフットレストに乗せてください。
○走行する時は、ハンドリムを手動で回転させて走行します。
○停止する時は、ハンドリムの回転を手で止めて停止します。
○移乗する時は、必ずブレーキをかけてください。

お手入れについて

○こまめに清掃することをお勧めします。
　こまめに清掃することにより、車いすの異常を早期に発見することにもつながります。

※有機溶剤を含んだ油汚れ取りは使用しないでください。
　塗装面がはがれるおそれがあります。

保管について

○必ず屋内で保管してください。
○長期間ご使用にならない場合は、タイヤを接地させないようにして、タイヤの空気を抜いて保管してください。
○再びご使用の際は点検・整備をしてください。

調整・点検について

○この車いすには、各所に調整機構がありますので、あなたの状態に合わせて各所の調整を行ってください。
○調整作業上、ホイールを外した方が作業しやすい場合がありますので、作業に合わせてホイールの着脱を行ってください。
○最適な姿勢で使用できるように各部の調整を行ってください。
○調整作業に不安がある場合は、ご自分では調整しないで、販売店に依頼してください。
○日常の点検・整備を行ってください。
○1ヵ月に1回を目安にして、定期点検を行ってください。

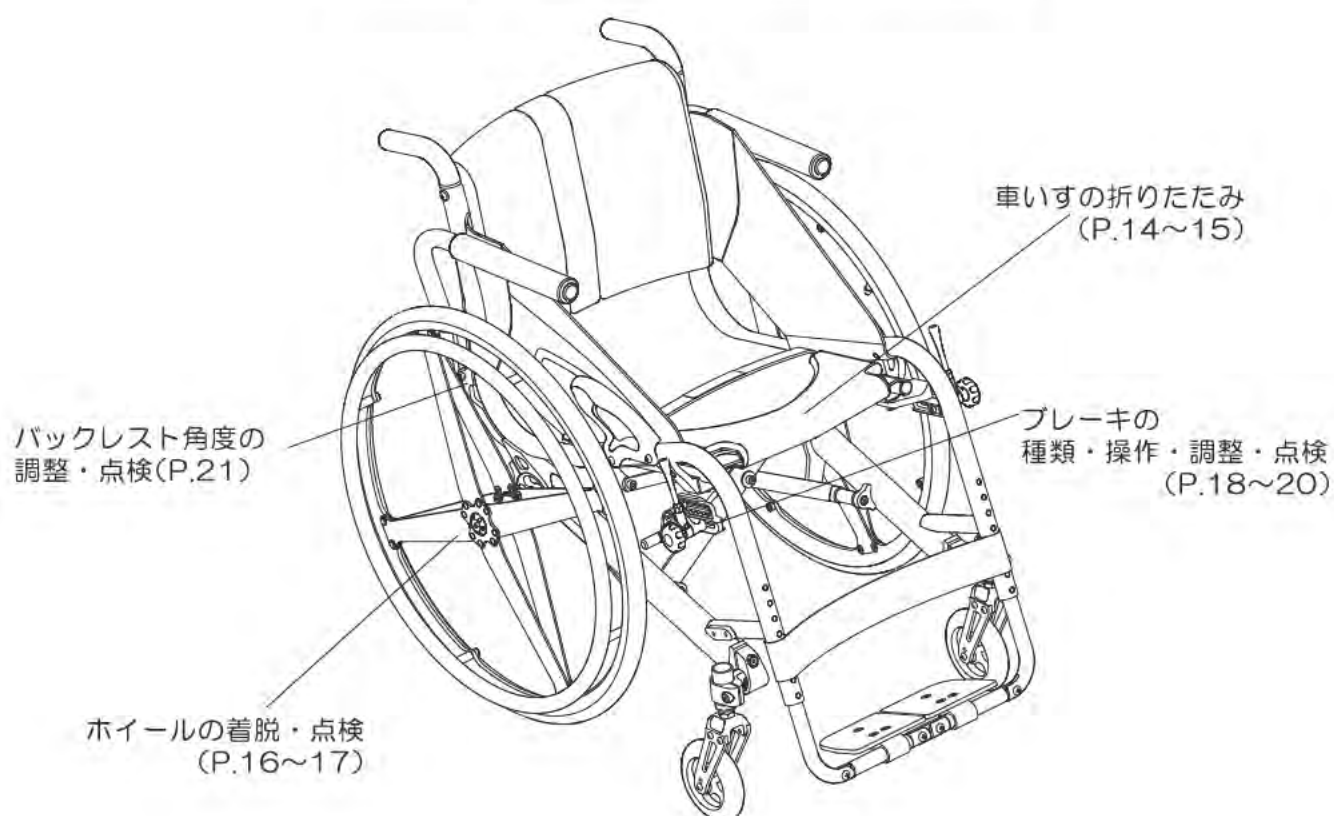
調整可能な箇所

○この車いすは、次の箇所に調整機構があります。

□　ブレーキ：効き具合・前後位置
□　バックレスト：高さ・角度（ZZR, SSR）・張り（バックレザー）
□　フットレスト：長さ・角度（フットプレート）
□　車軸：トー角（キャンバー付エキセントリックカラー装着車）・ホイール取付け間隔
　　　後座高・車軸前後位置（エキセントリックカラー装着車）
□　キャスター：前座高・トレッド（接地幅）

2章
車いすに乗る前に

この章では、この車いすの基本的な機能について説明しています。ご使用になる前に次の各説明を必ずお読みください。

- 車いすの折りたたみ
- ホイールの着脱・点検
- ブレーキの種類・操作
- ブレーキの調整・点検
- バックレスト角度の調整・点検
- 乗車・安全な介助

車いすの折りたたみ

＜折りたたむ＞【図1-1】【図1-2】【図1-3】【図1-4】

1）セパレートフットレストの場合は、左右のフットレストを折り上げる。【図1-2】
2）折りたたみベルト中央部を、上に引き上げる。【図1-3】
3）シートパイプ先端部の左右を合わせて折りたたむ。【図1-4】

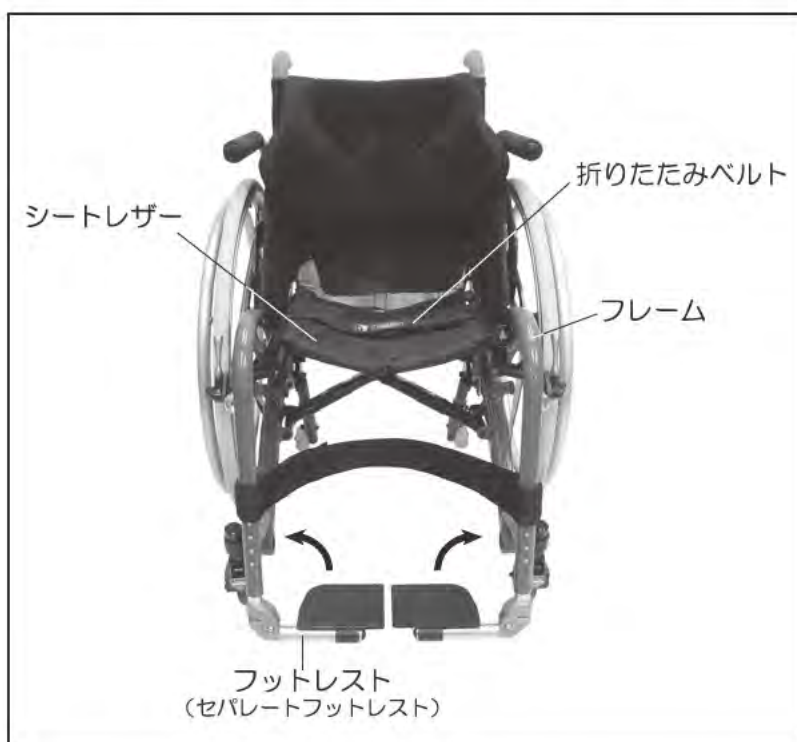
⚠注意

折りたたみベルトで車いすを持ち上げない。
＊車いすの重さで折りたたみベルトが外れ、事故のおそれがあります。

【図1-1】

【図1-2】

【図1-3】

【図1-4】

車いすの折りたたみ

＜開く＞【図1-5】【図1-6】【図1-7】

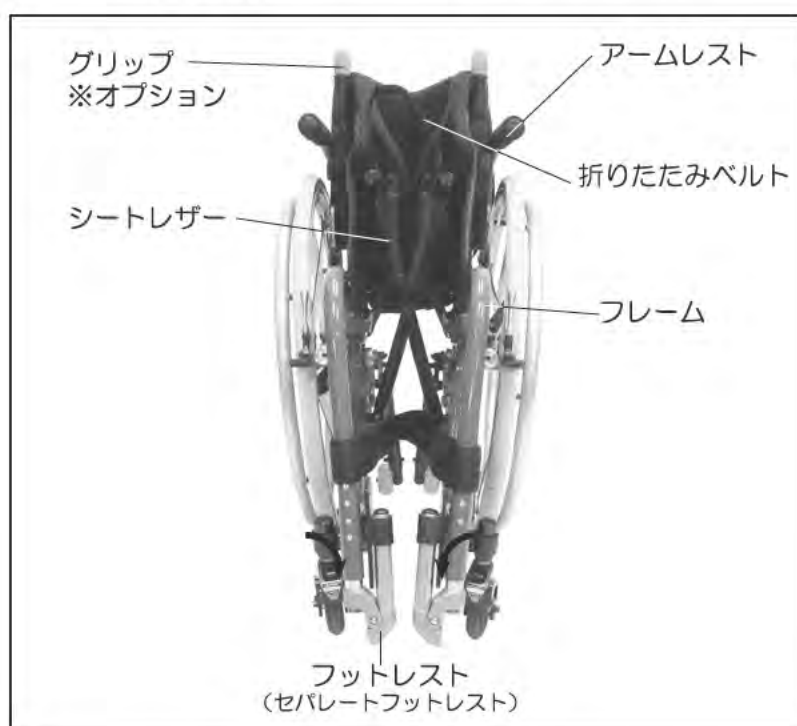
⚠注意

シートパイプをにぎって車いすを開かない。
＊シートパイプとフレームの間に手や指をはさみ、ケガをするおそれがあります。

1）フレームを持って少し開く。
2）片手でアームレストまたはグリップ（バックレスト）を押さえながら、手をはさまないように注意して、もう一方の手でシートパイプを押し広げる。
3）シートパイプが「受け」に確実にはまるまで広げる。【図1-6】
4）セパレートフットレストの場合は、左右のフットレストを下げる。【図1-7】

【図1-5】

【図1-6】

【図1-7】

ホイールの着脱・点検（「TT-3」は別紙取扱説明書を参照してください）

<ホイールの取外し>【図1-8】

1）ブレーキを「解除」する。（P.18）
2）ホイール中心部のプッシュロッドを押しながら、ホイールを手前に引く。

<ホイールの取付け>【図1-8】

1）ブレーキを「解除」の状態にする。（P.18）
2）ホイール中心部のプッシュロッドを押しながら、ホイールシャフトを軸穴に差込む。
3）確実に軸穴に差込まれ、プッシュロッドが【図1-8】の「○」の状態であることを確認する。

<ホイールの点検>【図1-8】

○装着時にプッシュロッドが戻らないなどの異常が無いかを確認する。
　＊異常があれば使用を止めて販売店にご相談ください。

○タイヤの減り具合、空気圧を見る。
　＊タイヤから布地が少しでも見えたら交換してください。
　＊タイヤの空気圧はP.53を参照してください。

⚠警告

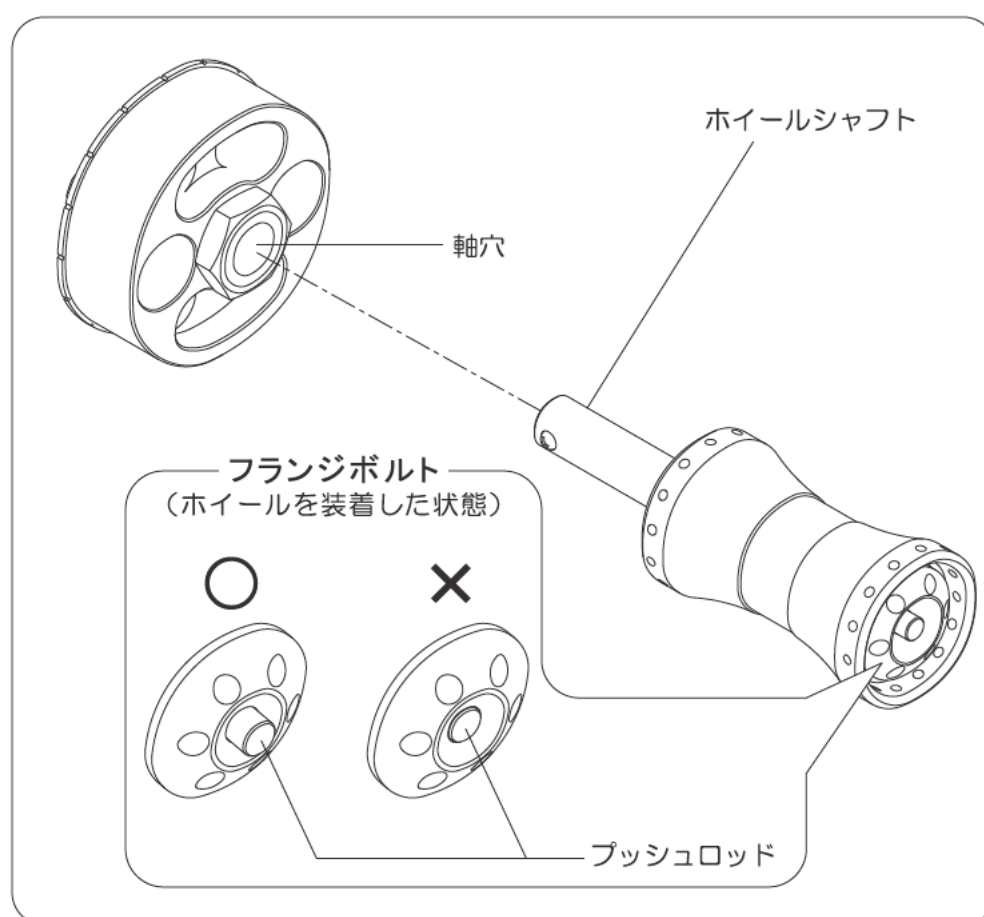
乗車中はプッシュロッドに触れない。
＊乗車中にホイールが外れ事故や転倒などのおそれがあります。

⚠警告

フランジボルトの中心からプッシュロッドが十分突き出していることを確認する。
＊確実に固定されていないとホイールが外れ事故や転倒などのおそれがあります。
＊プッシュロッドが戻らないなどの異常がある場合は、車いすの使用を止めて販売店にご相談ください。

⚠警告

ホイールシャフトや軸穴は精密加工されているので、傷を付けない。
＊傷が付くとホイールシャフトが入らなかったり、入りにくくなったりして危険です。
＊ホイールシャフトが入らなかったり、入りにくくなるなどの異常がある場合は、車いすの使用を止めて販売店にご相談ください。

【図1-8】

ホイールの着脱・点検

<ピックアップアクスル(ZZR)>【図1-9】

ピックアップアクスルを使用することにより、折りたたみ時によりコンパクトにすることができますので、乗用車のトランクなどへの積載に便利です。

取付け

1）ホイールを走行用の軸穴から外す。(P.16)
2）ホイール中心部のプッシュロッドを押しながら、ピックアップアクスルの軸穴にホイールシャフトを差し込む。
3）確実にピックアップアクスルに差込み、プッシュロッドが十分に突き出しているか確認する。
＊ホイールのスポークがブレーキと干渉していますと、十分に固定されません。スポークの間にブレーキが来るように取付けてください。
4）反対側も同様に行う。

取外し

1）ホイール中心部のプッシュロッドを押しながら、ピックアップアクスルの軸穴からホイールを引抜く。
2）ホイールを走行用の軸穴に取付ける。(P.16)
3）確実に軸穴に差込まれ、ホイール中心のプッシュロッドが戻っているか確認する。
4）反対側も同様に行う。

⚠警告

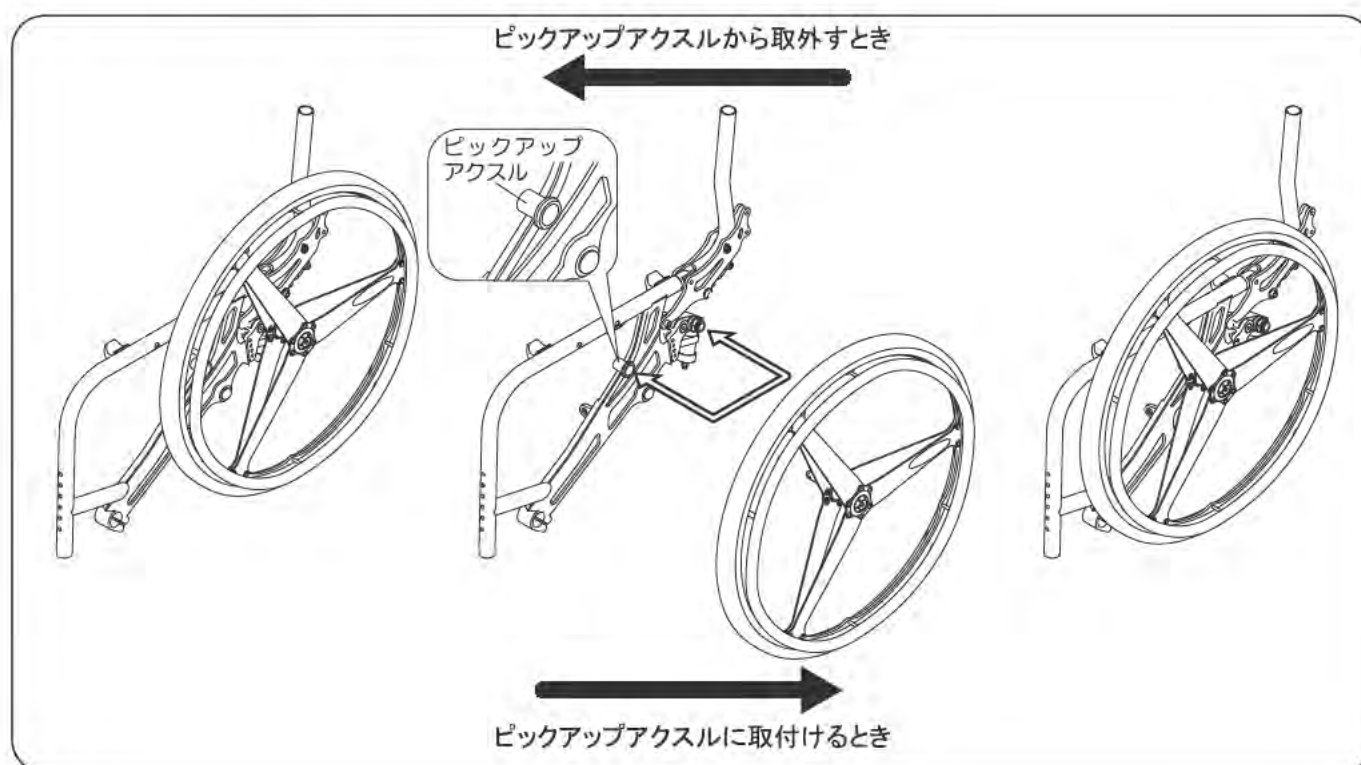
ピックアップアクスルにホイールを取付けた状態では絶対に乗車しない。

＊車軸の前出し量が非常に大きいため転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠警告

取付け時はホイールのプッシュロッドが十分突き出していることを確認する。

＊プッシュロッドが完全に戻りきっていない状態ではホイールが脱落するおそれがあります。

【図1-9】

ブレーキの種類・操作

ブレーキの種類には次の3つがありますので、ご自分の車いすに装着されているブレーキをご確認の上、「ブレーキの操作」「ブレーキの調整・点検」をお読みください。

<アジャスタブルブレーキ>【図1-10】

ダイヤル操作によるブレーキ位置の微調整が可能で、次のものがあります。

【図1-10】

<ブレーキのかけ方>【図1-11】

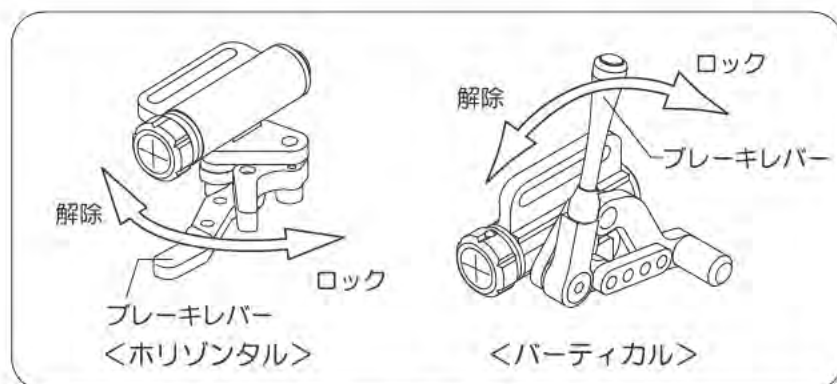
1）左右のブレーキレバーを後方（タイヤ側）にロックするまで引く。

2）車いすが動かないことを確認する。

※ブレーキをかけた状態で車いすが動く場合やブレーキが固くてかけられない場合は、「ブレーキの調整・点検」（P.19～20）を行ってください。

<ブレーキの解除>【図1-11】

1）左右のブレーキレバーを前方（進行方向）に押す。

2）ブレーキが完全に解除されたことを確認する。

【図1-11】

⚠警告

ブレーキをかけた状態で、車いすが動かないことを確認する。

＊転倒・転落のおそれがあります。

＊「ブレーキの調整・点検」(P.19～20)をこまめに行いブレーキの効き具合を最適に保ってください。

⚠警告

ブレーキはスピード調整に使用しない。

＊タイヤがロックし、事故や転倒のおそれがあります。ブレーキは駐停車時専用です。

⚠注意

ブレーキの解除をする時はブレーキレバーを最後まで戻す。

＊タイヤとブレーキの隙間に指をはさむおそれがあります。

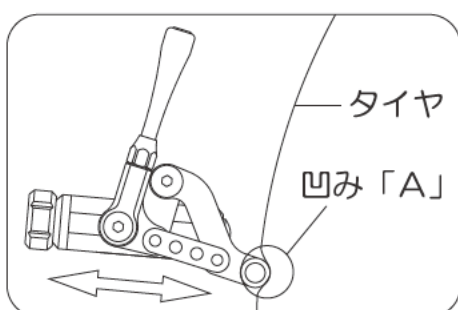
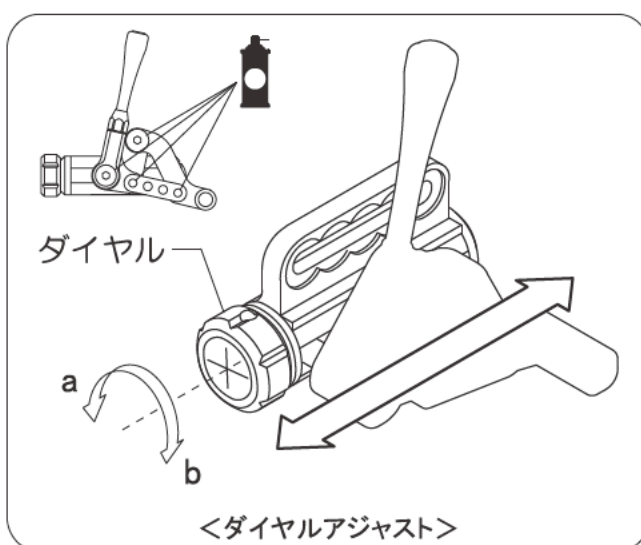
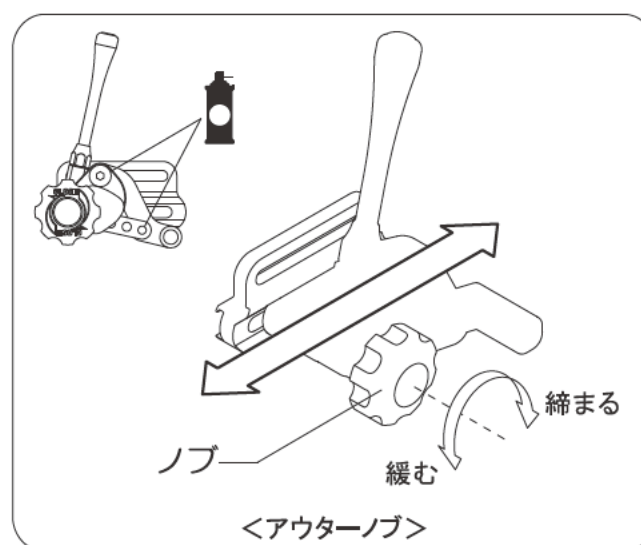
ブレーキの調整・点検

「ホリゾンタル」「バーティカル」のどちらもタイヤの空気圧が適正な状態(P.53)で、ブレーキをかけた時のタイヤの凹み「A」【図1−12】が3〜5㎜になるように調整してください。

＜ダイヤルアジャストの調整＞【図1-12】【図1-13】

1）ブレーキを解除する。（P.18）
2）ダイヤルを回して調整する。
　a の方向（反時計回り）
　　タイヤの凹みを増やし、ブレーキの効きを強くする。
　b の方向（時計回り）
　　タイヤの凹みを減らし、ブレーキの効きを弱くする。
3）左右同様に調整する。

＜アウターノブの調整＞【図1-12】【図1-14】

1）ブレーキを解除する。（P.18）
2）ノブを回して緩める。
3）最適な位置にスライドさせる。
4）ノブを回して締める。
5）左右同様に調整する。

⚠警告

ブレーキの効きは必要以上に強くしない。
＊ブレーキが破損し事故や転倒・転落のおそれがあります。

⚠警告

注油は、ブレーキとタイヤの接触する箇所には行わない。
＊ブレーキが効かず転倒・転落のおそれがあります。油分が付着してしまったときは、十分に脱脂してください。

⚠警告

アウターノブの調整後には「ノブ」が締まっているか確認してから使用する。
＊「ノブ」がしっかりと締まっていない状態で使用しますとブレーキが前後にスライドし非常に危険です。

【図1-12】

＜ダイヤルアジャスト＞

【図1-13】

＜アウターノブ＞

【図1-14】

ブレーキの調整・点検

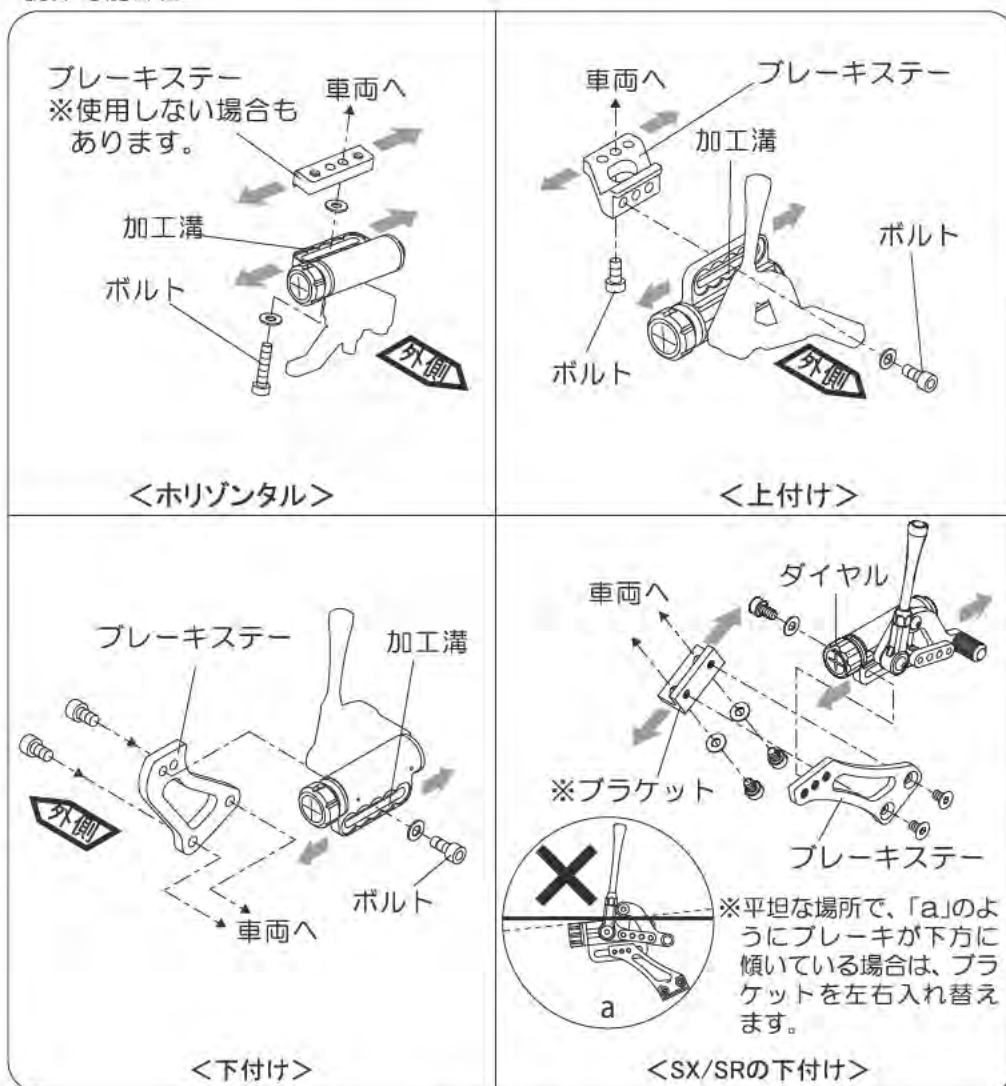
<ステー取付け位置の調節>【図1-15】

車軸前後位置の調整やホイールサイズの変更を行うと、ダイヤルやノブによる微調整では調整しきれない場合があります。このような場合にはブレーキ本体もしくはブレーキステーの取付け位置を移動して調節を行ってください。

※下図は一例です。ご自分の車両に装着されているブレーキの部品構成をよく確認した上で調節してください。

<ブレーキの点検>

毎日乗車前にブレーキの効き、ボルト・ナット類の緩み、脱落がないか点検してください。

ボルト締付けトルク　10N・m(1.0kgf・m)

⚠警告

ボルトを締めるときにワッシャーが確実に加工溝に収まっていることを確認する。

＊ブレーキが外れ事故や衝突、転倒・転落のおそれがあります。

＊ブレーキにガタつきや異常な動きなどを見つけたら増し締めを行ってください。増し締めを行っても異常があるときは、車いすの使用を止め、販売店にご相談ください。

⚠警告

<SX/SR の下付け>
ブレーキは、下方に傾いた状態で使用しない。

＊ブレーキが不意に解除して事故のおそれがあります。

＊前座高・後座高やホイール径の変更後は、必ず確認してください。

調節可能部位

<ホリゾンタル>

<上付け>

<下付け>

<SX/SRの下付け>

【図1-15】

バックレスト角度の調整・点検

＜バックレスト(ZZR・SSR)の角度調整＞【図1-16】

1）アウターレザーを取外す。(P.31)
2）サイドレザー後部の面ファスナーとベルトをはがす。
3）①ボルト、②ボルト・ナット、③ボルト(表・裏)を緩める。
4）スパナ(10㎜)で「a」を回し、バックレストを最適な角度にする。
※矢印で示す間の距離を長くする方向へ回すと、バックレストは起こす方向へ動きます。
5）①ボルト、②ボルト・ナット、③ボルト(表・裏)を締付ける。
6）バックレストを起こす方向へ「a」を半回転ほど回す。
7）左右同様に調整する。
8）サイドレザー後部の面ファスナー及びベルトを最適な張りになるように貼付ける。(P.33)
9）アウターレザーを取付ける。(P.31)

⚠注意

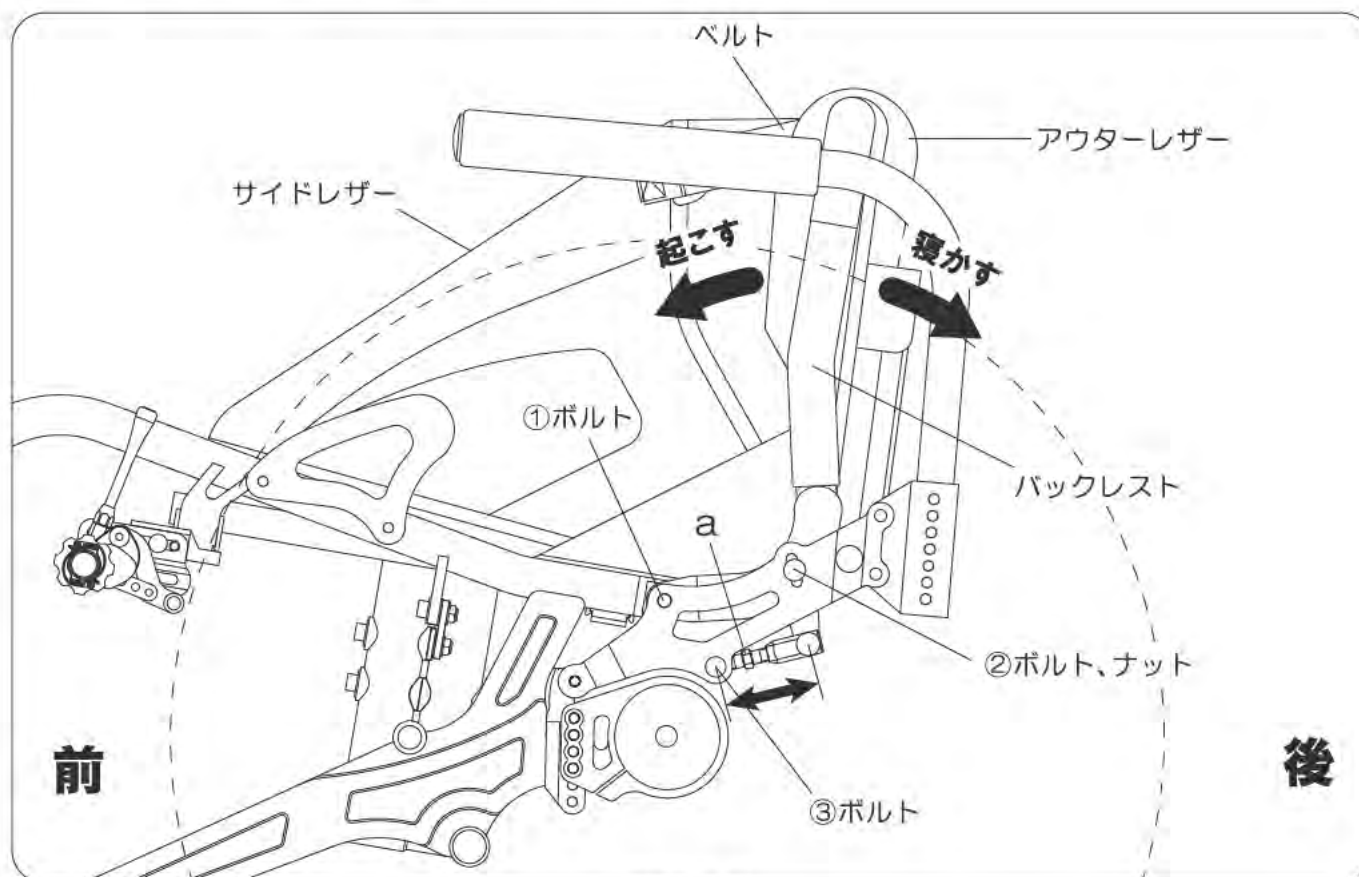
必ず左右のバックレスト角度は同じ角度にする。
＊バックレストに負荷がかかり車いすが破損するおそれがあります。

⚠注意

サイドレザーは、たるまないように貼付ける。
＊ホイールへの干渉や、巻き込みのおそれがあります。

＜バックレストの点検＞

ボルト・ナット類の緩み、脱落、極端に大きなガタつきがないか点検してください。

①ボルト締付けトルク　12N・m(1.2kgf・m)
②ボルト、ナット締付けトルク　12N・m(1.2kgf・m)
③ボルト締付けトルク　12N・m(1.2kgf・m)

【図1-16】

乗車・安全な介助

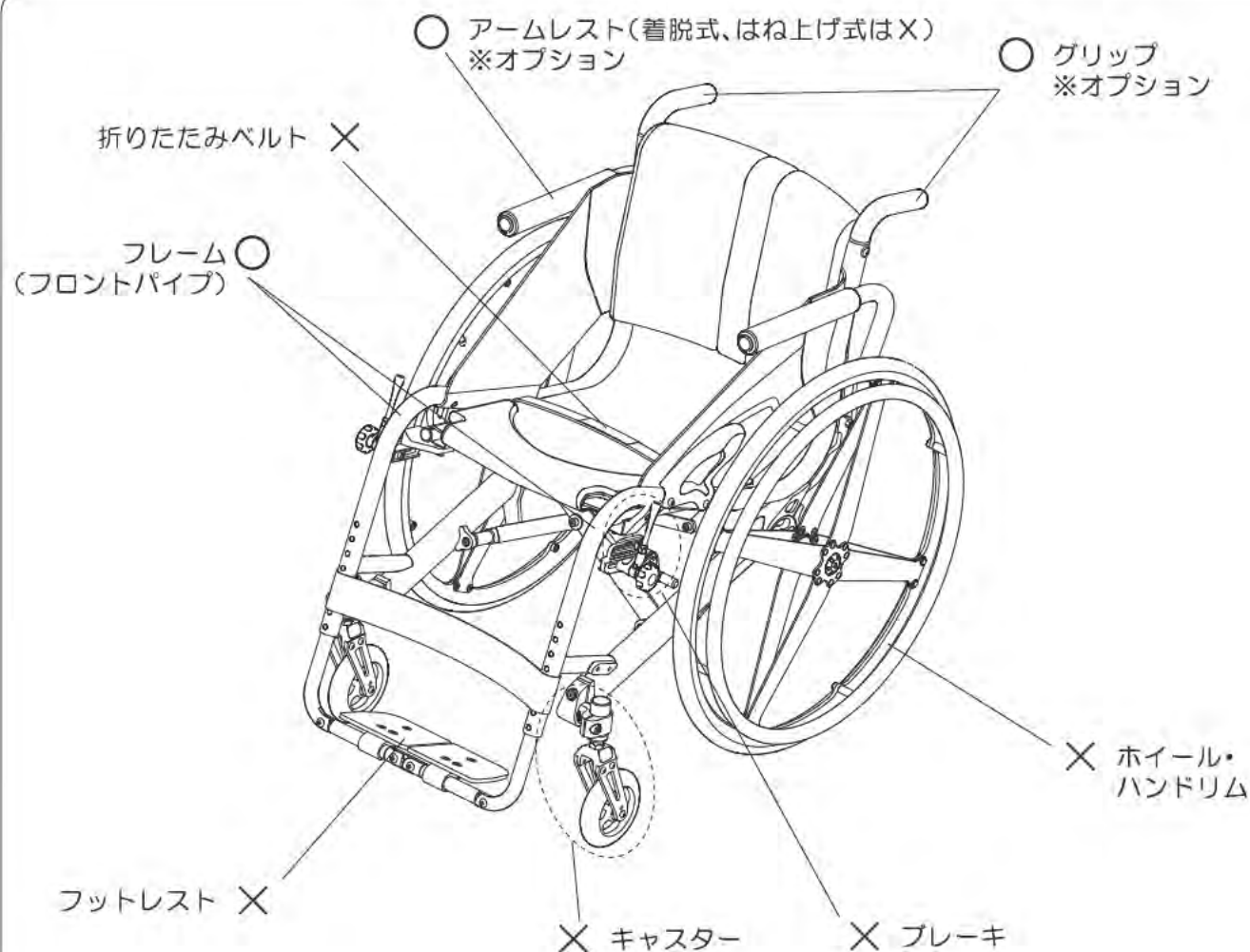
<乗車姿勢>

車いすのシート部にクッションを敷き、着座してください。足はフットレストに乗せてください。
最適な姿勢で使用できるように、フットレストの調整、バックレストの調整を行ってください。3章各部の調整・点検参照。

<安全な介助のために>【図1-17】

介助を受ける際には、車いすを持つ箇所を介助者に指示してください。
下図に示す×印の箇所は非常に危険です。

> **⚠警告**
>
> 車いすを持ち上げるときは必ず○印の箇所を指定する。
>
> ＊○印以外の箇所を持つと部品が外れたり破損したりして落下・転落・転倒のおそれがあります。
>
> ＊車いすの介助に不慣れな方が、ホイールや着脱可能な状態のアームレストを持つことがありますが、非常に危険ですので、あなたが安全な箇所を指定してください。

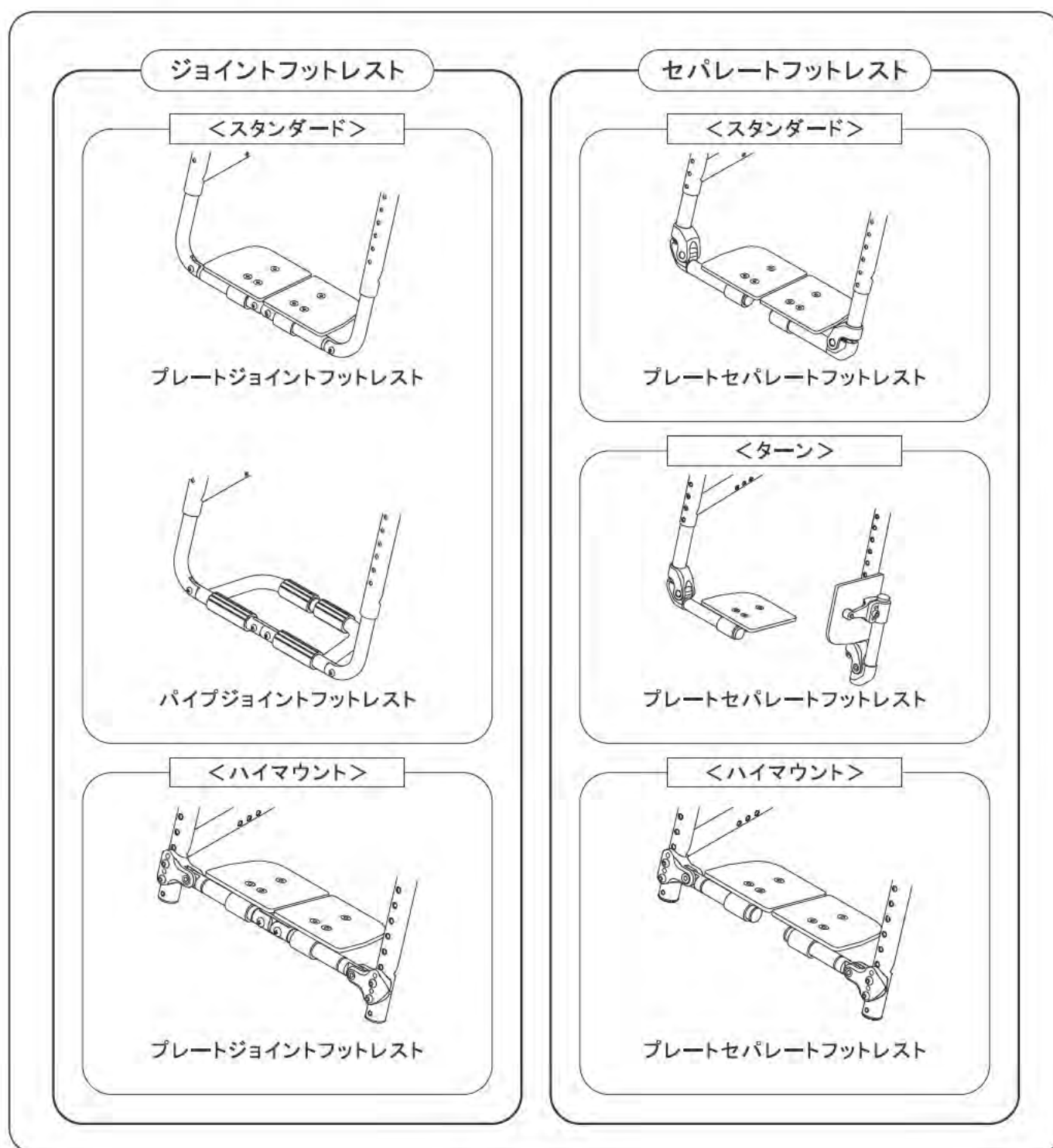
○ アームレスト（着脱式、はね上げ式は×）
※オプション
○ グリップ
※オプション
折りたたみベルト ×
フレーム ○
（フロントパイプ）
× ホイール・
ハンドリム
フットレスト ×
× キャスター
× ブレーキ

【図1-17】

3章 各部の調整・点検

この章では、各部の調整・点検について
説明しています。

フットレストの調整・点検

<フットレストの種類>【図2-1】

フットレストにはいくつかのタイプがありますので、ご自分の車いすに装着されているフットレストをご確認の上「フットレストの調整・点検」をお読みください。

【図2-1】

フットレストの調整・点検

<フットレスト長の調節（スタンダード）>【図2-2】

車いすのシート部にクッションを敷き、着座して最適なフットレスト長に調節してください。

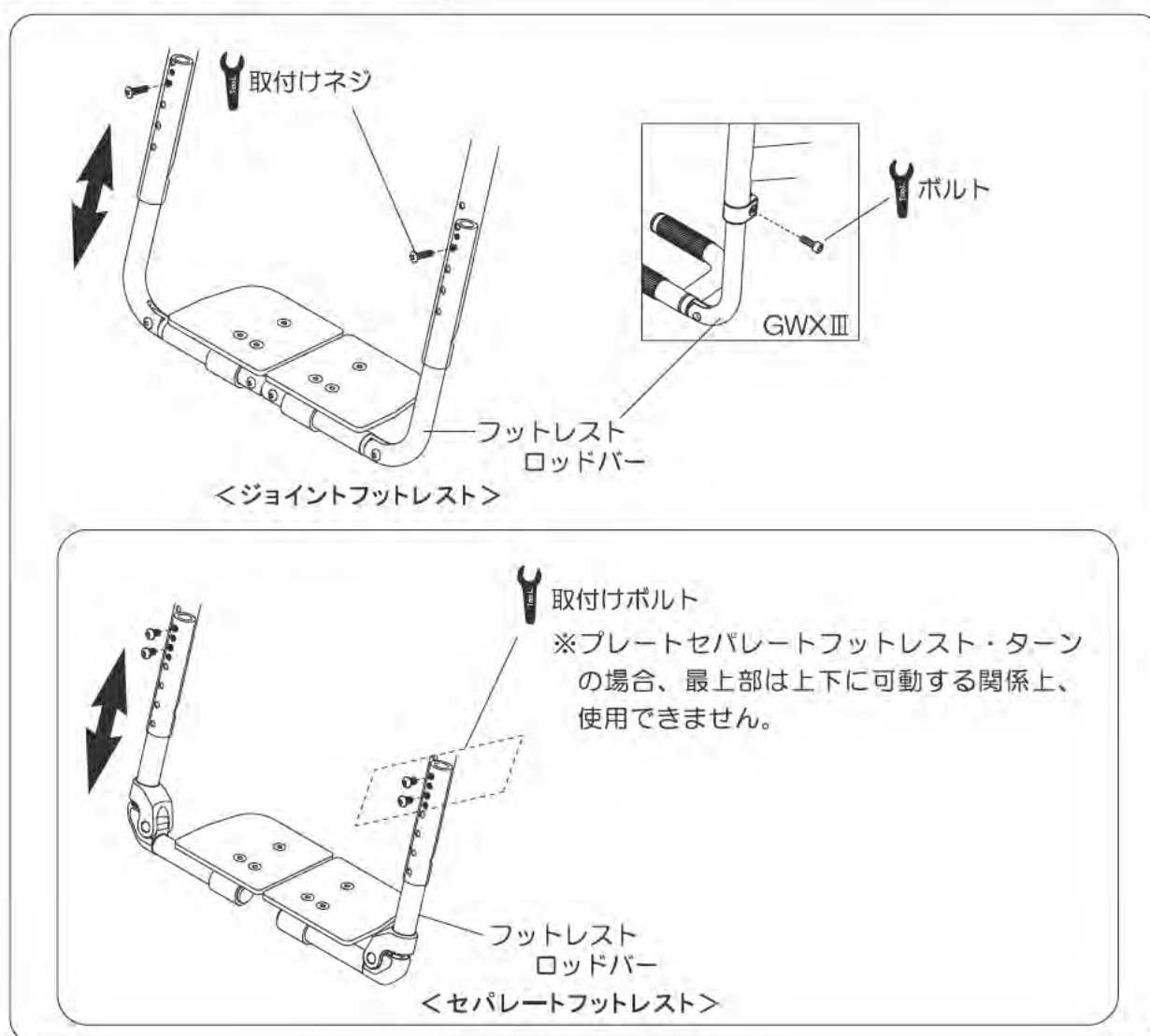
1）レッグベルトを外す。（P.52）
2）左右の取付けネジ（ボルト）を外す。GWXⅢはクランプのボルトを緩める。
3）フットレストロッドバーを上下にスライドさせ、最適な位置に合わせる。
4）左右同じ位置に合わせ、取付けネジ（ボルト）を締付ける。GWXⅢはクランプのボルトを締める。
5）フットレストから足が後方に落ちないように、レッグベルトの張りを調整して取付ける。（P.52）

取付けネジ締付けトルク	6N・m（0.6kgf・m）
取付けボルト締付けトルク	8N・m（0.8kgf・m）

⚠警告

フットレストと地面の間隔は、十分確保する。
＊段差や石などに当り転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠注意

ジョイントタイプのフットレストは必ず左右同じ長さに調整する。
＊車いすが破損するおそれがあります。
＊左右のフットレスト長確認は、車いすを折りたたんだ状態でフットレストロッドバー下端の位置を確認してください。

【図2-2】

フットレストの調整・点検

<フットレスト長の調節（ハイマウント）>【図2-3】【図2-4】

車いすのシート部にクッションを敷き、着座して最適なフットレスト長に調節してください。

1）レッグベルトを外す。(P.52)

2）左右2本づつの取付けボルトを外す。

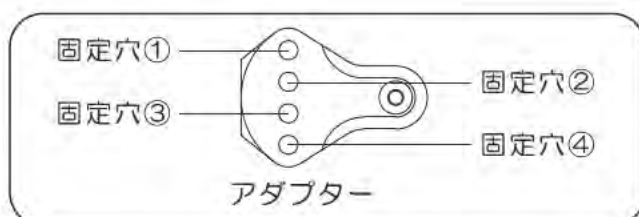
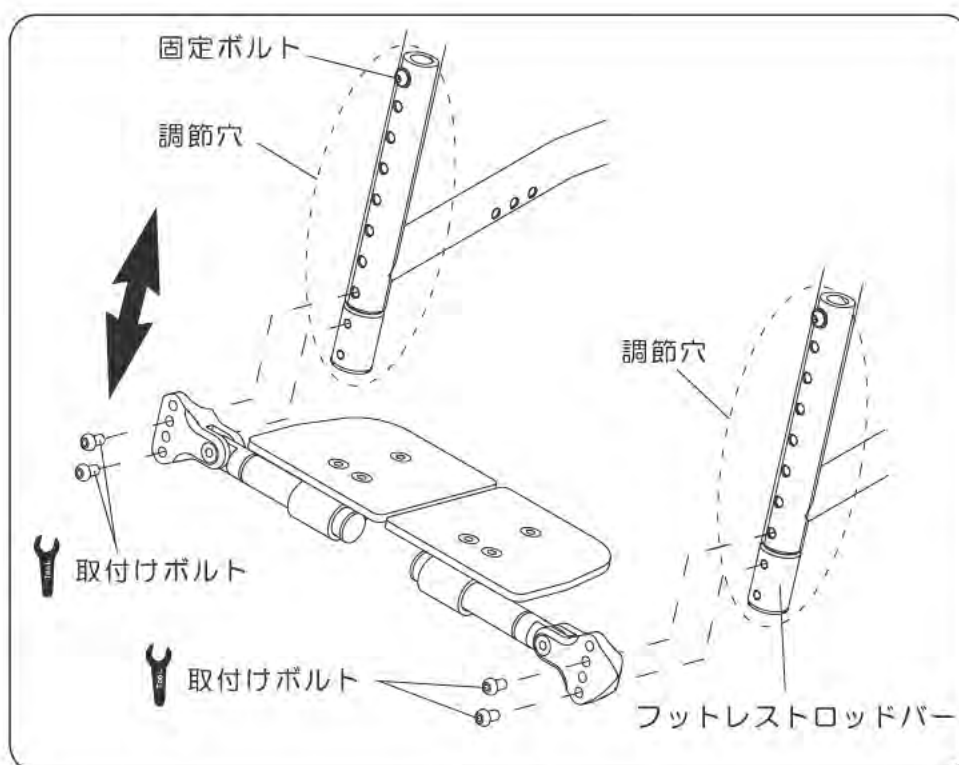
3）アダプターの固定穴①と③、または固定穴②と④に取付けボルトを差込み、最適な位置の調節穴に合わせて取付ける。

※固定ボルトが邪魔になる場合は、固定ボルトの位置を変えてください。

4）左右2本づつの取付けボルトで締付ける。

5）フットレストから足が後方に落ちないようにレッグベルトの張りを調整して取付ける。(P.52)

取付けボルト締付けトルク　8N･m(0.8kgf･m)

⚠警告

フットレストと地面の間隔は、十分確保する。

＊段差や石などに当り転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠警告

必ず取付けボルト2本で固定する。

＊固定力が低下し、ケガや車いすの破損のおそれがあります。必ず取付けボルト2本で固定するようにしてください。

⚠注意

ジョイントタイプのフットレストは必ず左右同じ長さになるように調節する。

＊車いすが破損するおそれがあります。

＊左右のフットレスト長確認は、車いすを折りたたんだ状態でフットレストロッドバー下端の位置を確認してください。

【図2-3】

【図2-4】

フットレストの調整・点検

＜ハイマウントフットレストの調節可能範囲＞

【図2-5】【図2-6】【図2-7】

ハイマウントフットレストの調節可能範囲は、次の通りです。

最上位置： アダプターの固定穴②と調節穴①及び固定穴④と調節穴②が重なる位置【図2-6】

最下位置： アダプターの固定穴①と調節穴⑨及び固定穴③と調節穴⑩が重なる位置【図2-7】

※固定ボルトが邪魔になる場合は、固定ボルトの位置を変えてください。

⚠警告

フットレストと地面の間隔は、十分確保する。

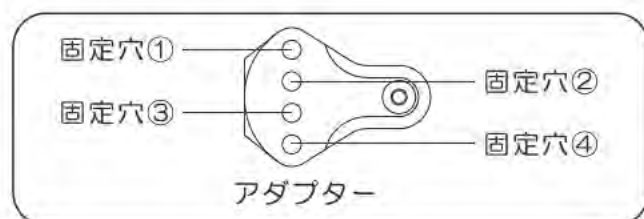
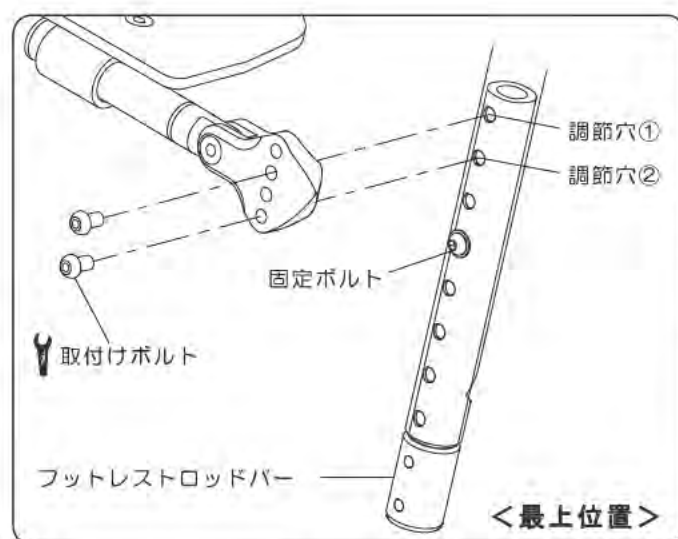
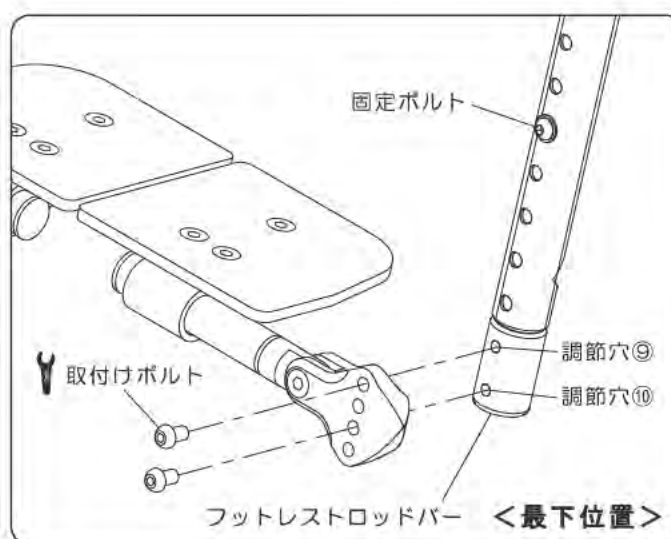
＊段差や石などに当り転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠注意

ジョイントタイプのフットレストは必ず左右同じ長さになるように調節する。

＊車いすが破損するおそれがあります。

＊左右のフットレスト長確認は、車いすを折りたたんだ状態でフットレストロッドバー下端の位置を確認してください。

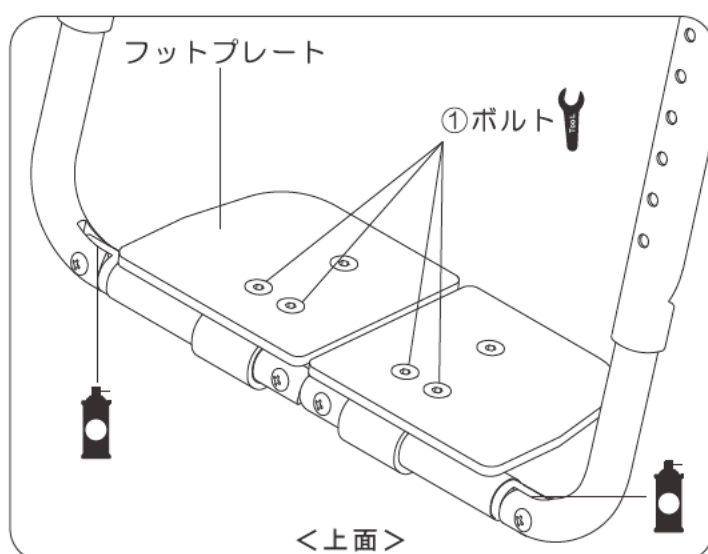
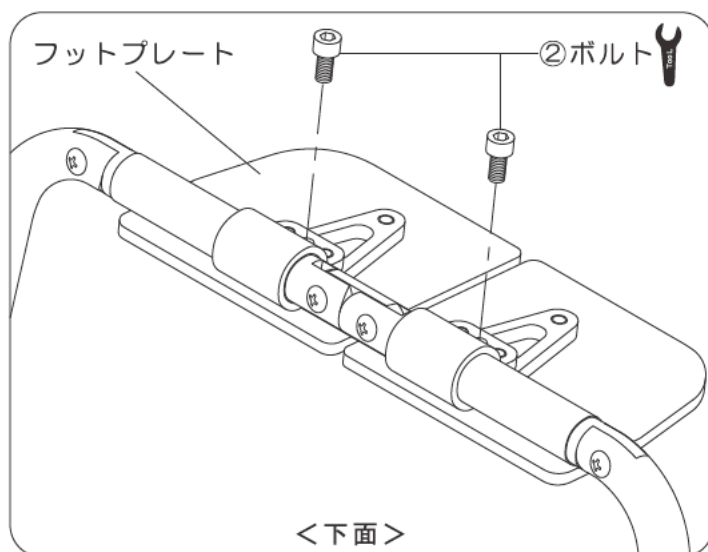
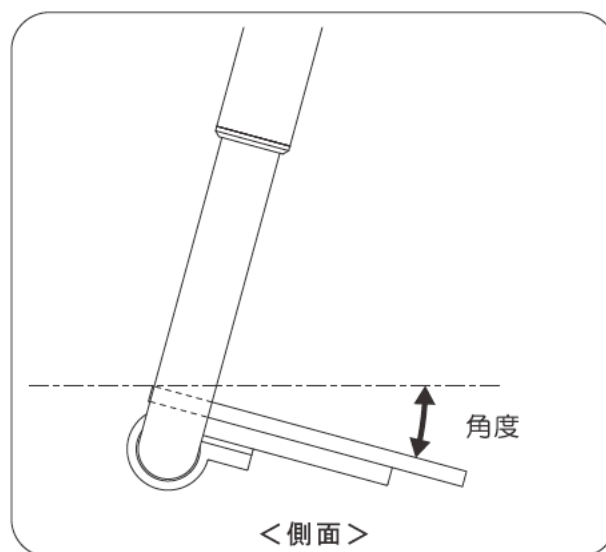
取付けボルト締付けトルク　8N･m(0.8kgf･m)

【図2-5】

【図2-6】

【図2-7】

フットレストの調整・点検

＜フットプレートの角度調整＞【図2-8】【図2-9】【図2-10】

1）①②ボルトを緩める。
2）フットプレートを最適な角度にする。【図2-10】
3）①②ボルトを交互に繰り返し締める。
　※交互に繰り返し締めないと確実に締まりません。
4）左右同様にする。
5）フットプレートと地面の間隔が十分確保できているか確認する。
6）車いすを折りたたみ、左右のフットプレート同士が接触していないか、またフレームに接触していないか確認する。

①ボルト締付けトルク	8N・m（0.8kgf・m）
②ボルト締付けトルク	8N・m（0.8kgf・m）

⚠警告

フットレストと地面の間隔は、十分確保する。
＊段差や石などに当り転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠注意

車いすを折りたたんだ状態でフレームや左右のフットプレート同士が接触した状態では使用しない。
＊車いすが破損するおそれがあります。
＊調整後は必ず確認してください。

【図2-8】

【図2-9】

【図2-10】

フットレストの調整・点検

＜セパレートフットレストの角度修正＞

【図2-11】【図2-12】【図2-13】

セパレートフットレストは、フットレストロッドバーとフットプレートの角度を最適な状態に調整することができます。なお、セパレートフットレストのタイプによって調整方法が異なりますので、装着されているフットレストをご確認ください。(P.24)

⚠注意

調整ボルトを緩めすぎない。
＊フットレストが破損します。
＊フットプレートがフットレストロッドバーに対して90°になるように修正してください。

⚠注意

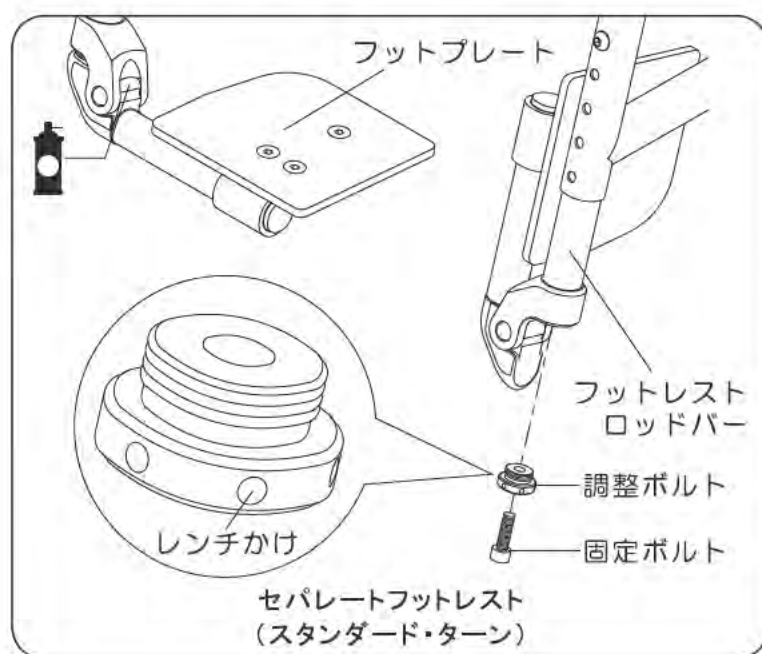
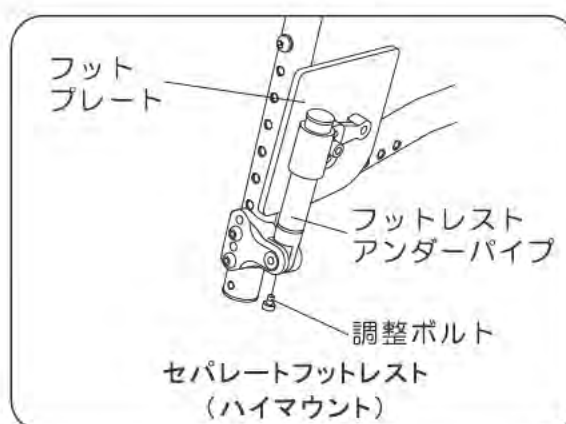
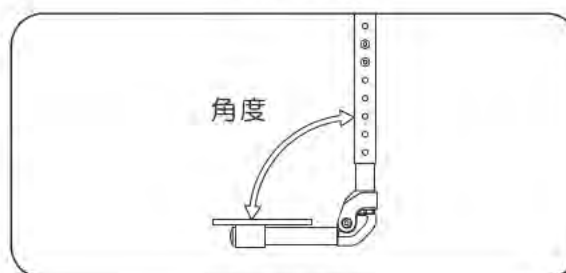
フットレストを折りたたむ際に手をはさまないように注意する。
＊フットプレートとフットレストロッドバーやフレームに、手や指をはさまないようにゆっくりとたたんでください。

セパレートフットレスト(スタンダード・ターン)【図2-11】

1）フットレストを折りたたむ。
2）フットレストロッドバー下端の固定ボルトを外す。
3）調整ボルトを回して最適な角度に調整する。【図2-13】
4）調整ボルト側面のレンチかけに、六角レンチ(2㎜)などを差込む。
5）六角レンチ(2㎜)などを回らないように支持しながら、固定ボルトを締付ける。
6）左右同様にする。

セパレートフットレスト(ハイマウント)【図2-12】

1）フットレストを折り上げる。
2）フットレストアンダーパイプ下端の調整ボルトを回して最適な角度に調整する。【図2-13】
3）左右同様にする。

固定ボルト締付けトルク　8N･m(0.8kgf･m)

【図2-11】

【図2-12】

【図2-13】

フットレストの調整・点検

<ターンフットレストを開く>【図2-14】

1）フットレストを折り上げる。（A）
2）フットレストを引き上げながら、外側に回転させる。（B→C）

<ターンフットレストを戻す>【図2-14】

1）フットレストを内側へ回転させる。（C）
※フットレストを引き上げる必要はありません。
2）フットレストを下げる。（A）

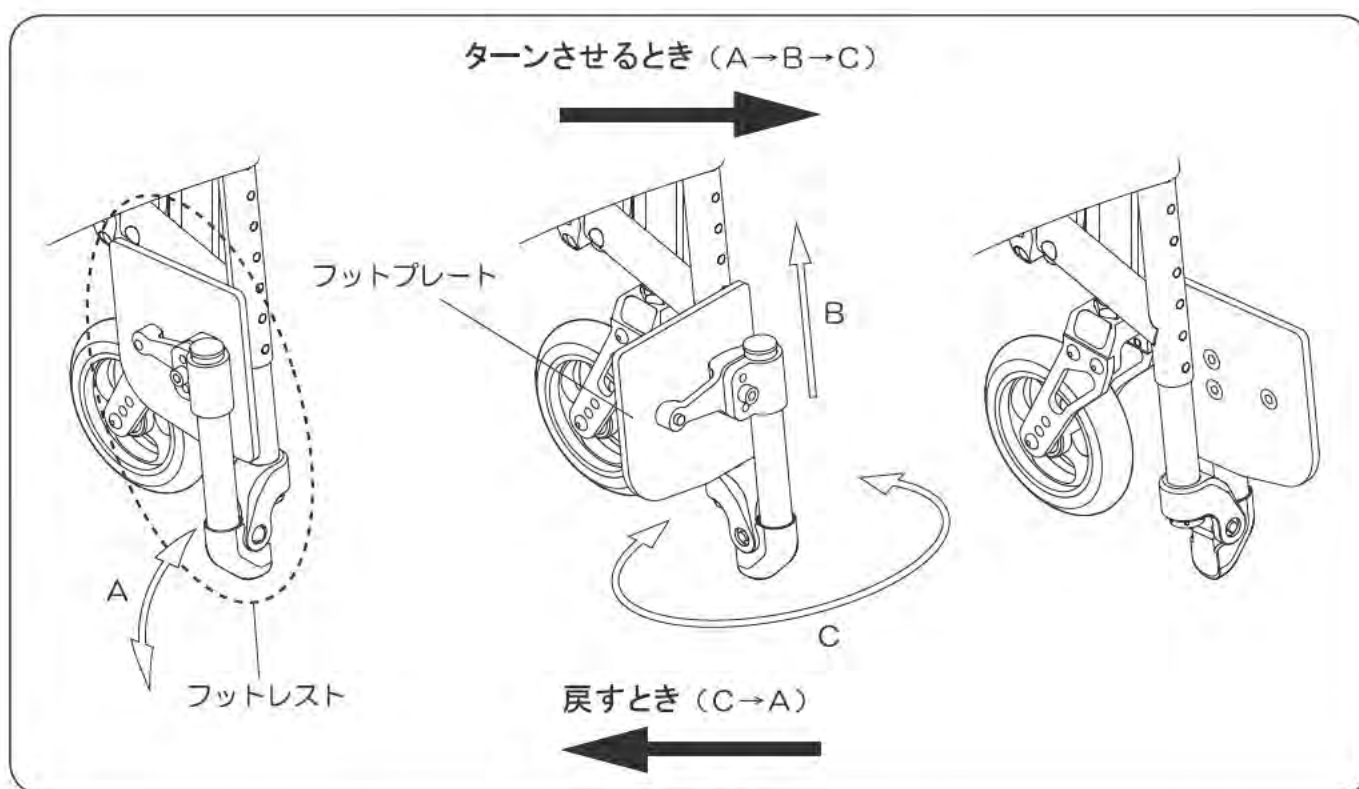
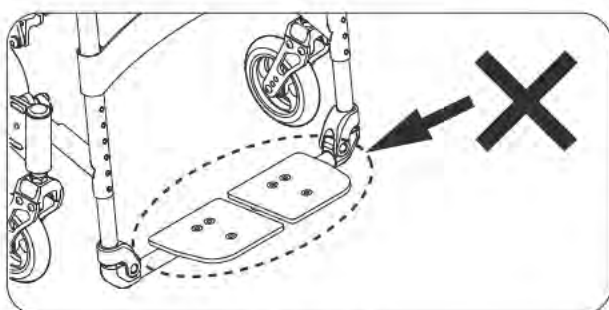
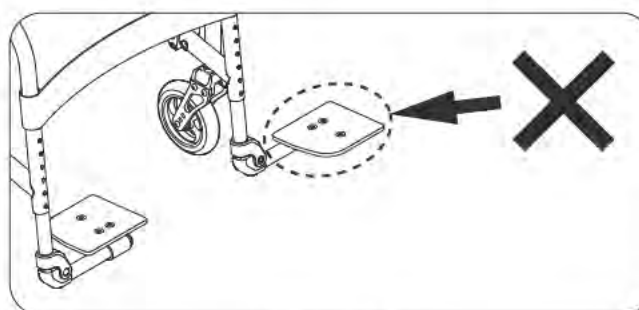
<フットレストの点検>

フットプレートにひび割れはないか。
ネジ・ボルトの緩みはないか。

⚠警告

フットプレート部そのものを前方向へ組換えない。【図2-15】
＊キャスターがロックしてしまい、転倒・転落のおそれがあります。

⚠注意

フットレストを外側に開いたまま走行しない。【図2-16】
＊周りの人や物等と接触し、事故のおそれがあります。

【図2-14】

【図2-15】

【図2-16】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

<アウターレザーの取外し>【図2-17】

アウターレザー前面下部から矢印の方向に面ファスナーをはがしていき、後方もそのままはがします。

<アウターレザーの取付け>【図2-17】

アウターレザー前面下部が最適な高さになる位置にし、矢印の方向に面ファスナーを貼付けていきます。楕円形のワッペンが車いす後方の上部にくるようにアウターレザーを取付けてください。

<ランバーパッドの交換(ZZR・SSR・GWXⅢ)>【図2-18】

アウターレザーの両側部のランバーパッド挿入口の面ファスナーをはがし、お好みのランバーパッドを挿入してください。なお、重ねて入れ過ぎると折りたたみ幅が広くなることがあります。

【図2-17】

【図2-18】

⚠注意

【図2-18】アウターレザーは内蔵スポンジの弾力が無くなってきたら交換する。
＊背中や腰に褥瘡などができるおそれがあります。
＊スポンジのみの交換はできません。

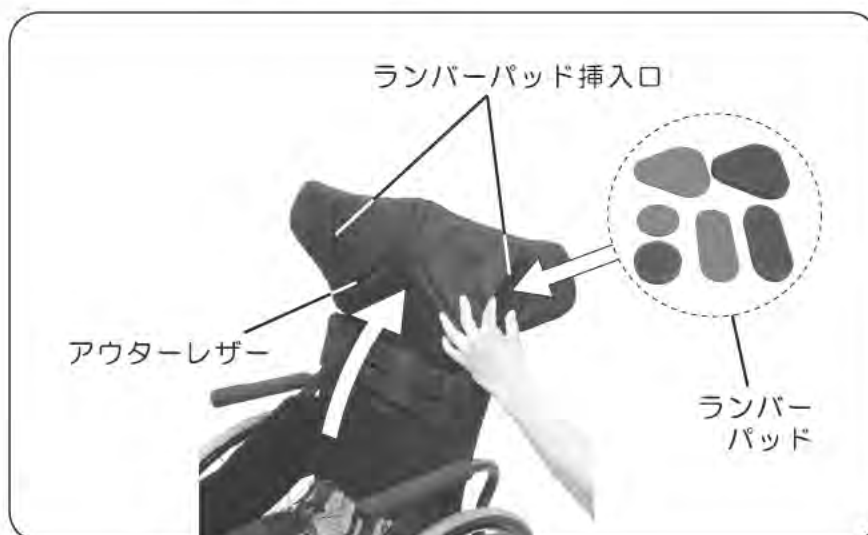
⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

乗車時に面ファスナーのA面(オス)が、衣服に触れないように取付ける。
＊衣服を傷める恐れがあります。

バックレスト及びレザー類の調整・点検

<ヒップレザーの取外し>【図2-19】

1）アウターレザーを取外す。(P.31)
2）カバーシートレザーの後方2箇所の面ファスナーをはがす。
3）ヒップレザーのバックレスト側の面ファスナーをはがす。
4）ヒップレザーのシート側の面ファスナーをはがす。

<ヒップレザーの取付け>【図2-19】

ヒップレザーには向きがあります。取付けの際は注意してください。
1）ヒップレザーのシート側の面ファスナーを貼付ける。
2）ヒップレザーを最適な乗車姿勢になるように調整してバックレスト側の面ファスナーを貼付ける。
3）カバーシートレザーの面ファスナーを貼付ける。
4）アウターレザーを取付ける。(P.31)

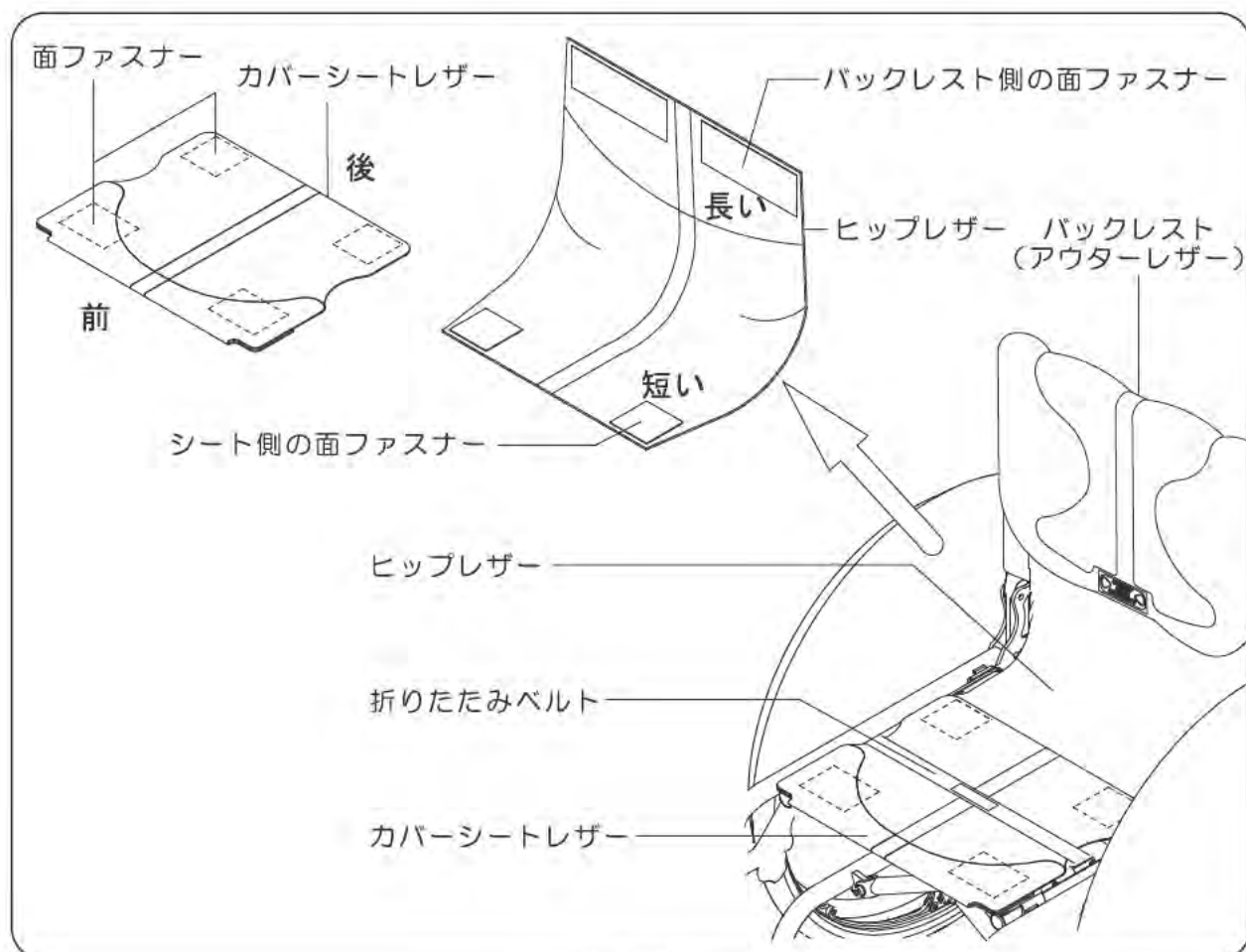
⚠注意

ヒップレザーの張りは乗車姿勢に影響するので正しく調整する。

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

【図2-19】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

<サイドレザーの取外し(ZZR・SSR・GWXⅢ・SX・MX)>【図2-20】

1) アウターレザーとヒップレザーを取外す。(P.31・32)
2) サイドレザーの面ファスナーをはがす。(GWXⅢは下部のベルトも)
3) ベルトの面ファスナーをはがす。
4) 車いすを少し折りたたんだ状態にする。
5) 全てのプッシュリベットを取外す。
6) サイドレザーからレールを引抜く。

⚠注意

ホイールを回転させて、サイドレザーとタイヤ、スポークが接触しないことを確認する。
＊サイドレザーを破損するおそれがあります。

<サイドレザーの取付け(ZZR・SSR・GWXⅢ・SX・MX)>【図2-20】

1) 車いすを少し折りたたんだ状態にする。
2) サイドレザーとレールの穴が合うようにレールを差込む。
3) 全てのプッシュリベットをサイドレザーの穴に差込み、フレームに取付ける。
4) 車いすを開いた状態にする。
5) サイドレザーを最適な張りにしながら、面ファスナーを貼付ける。
6) ベルトを適切な張りと角度にしながら面ファスナーをバックレスト後部に貼付ける。(GWXⅢは下部のベルトを元に戻す)
7) アウターレザーとヒップレザーを取付ける。(P.31・32)

⚠注意

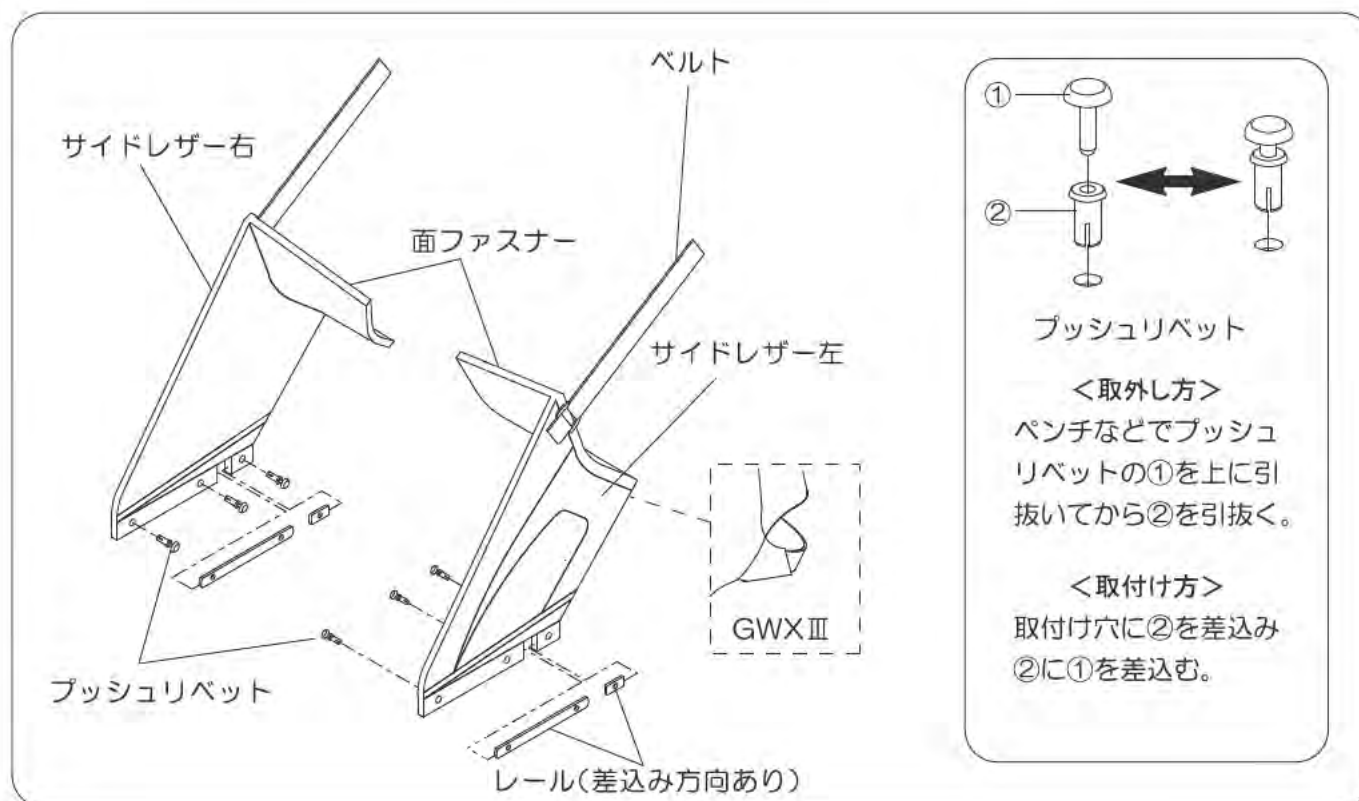
面ファスナーは確実に貼付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

プッシュリベット

<取外し方>
ペンチなどでプッシュリベットの①を上に引抜いてから②を引抜く。

<取付け方>
取付け穴に②を差込み②に①を差込む。

【図2-20】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

<サイドガードの取外し(GWXⅢ)>【図2-21】

1）アウターレザーとヒップレザーを取外す。(P.31・32)
2）ベルトの面ファスナーをはがす。
3）ボルト、ワッシャーを取外す。

<サイドガードの取付け(GWXⅢ)>【図2-21】

1）サイドガードをボルト、ワッシャーで固定する。
2）サイドガードが、タイヤ、ホイールに接触しないようベルトの面ファスナーを最適な位置に貼付ける。
3）アウターレザーとヒップレザーを取付ける。(P.31・32)

ボルト締付けトルク　10N・m(1.0kgf・m)

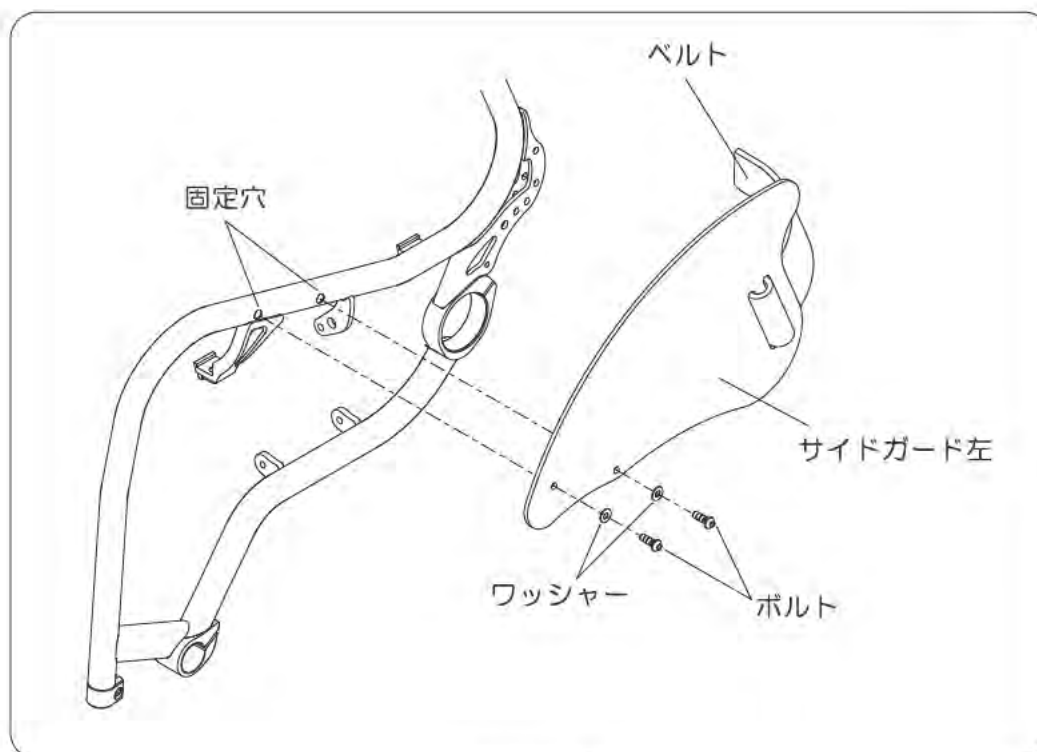
⚠注意

ホイールを回転させて、サイドガードとタイヤ、スポークが接触しないことを確認する。
＊サイドガードを破損するおそれがあります。

⚠注意

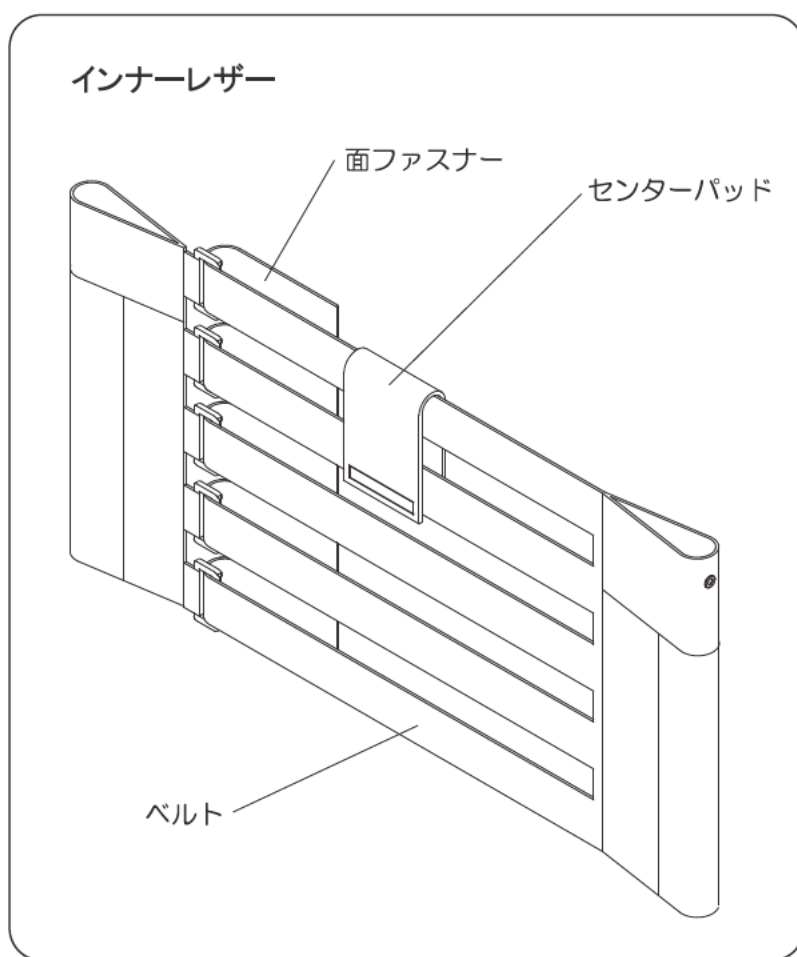
面ファスナーは確実に貼付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

【図2-21】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜インナーレザーの調整＞【図2-22】

1）アウターレザーとヒップレザーを取外す。(P.31・32)
2）サイドレザーの面ファスナーとベルトをはがす。(P.33)
3）インナーレザー上下各部のベルトを最適な張りに調整する。
4）センターパッドを背骨が当たる位置に移動する。
5）サイドレザーの面ファスナーとベルトを貼付ける。(P.33)
6）アウターレザーとヒップレザーを取付ける。(P.31・32)

⚠注意

面ファスナーは確実に貼付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

インナーレザーの張り調整は「張り過ぎ」「緩め過ぎ」に注意する。
＊車いすが破損するおそれがあります。
＊車いすが開いた状態でしっかりとクロスメンバーがフレームの「受け」に収まっていることを確認してください。(P.15)

インナーレザー

面ファスナー
センターパッド
ベルト

【図2-22】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜インナーレザーの取外し＞【図2-23】

1）アームレスト装着車はアームレストを取外す。(P.50)
2）アウターレザー(P.31)とコーナーパッド(グリップ未装着車のみ)を取外す。
3）ヒップレザーを取外す。(P.32)
4）サイドレザーの面ファスナーとベルトをはがす。(ZZR・SSR・GWXⅢ・SX・MXのみ)(P.33)
5）左右の取付けネジを取外す。
6）左右の「A」の面ファスナーをはがす。(SR・MRのみ)
7）インナーレザーを上に引抜く。
※グリップ装着車の場合は＜バックレスト高の調整＞(P.37)を参照し、グリップを引抜いた後、インナーレザーを上に引抜く。

⚠注意

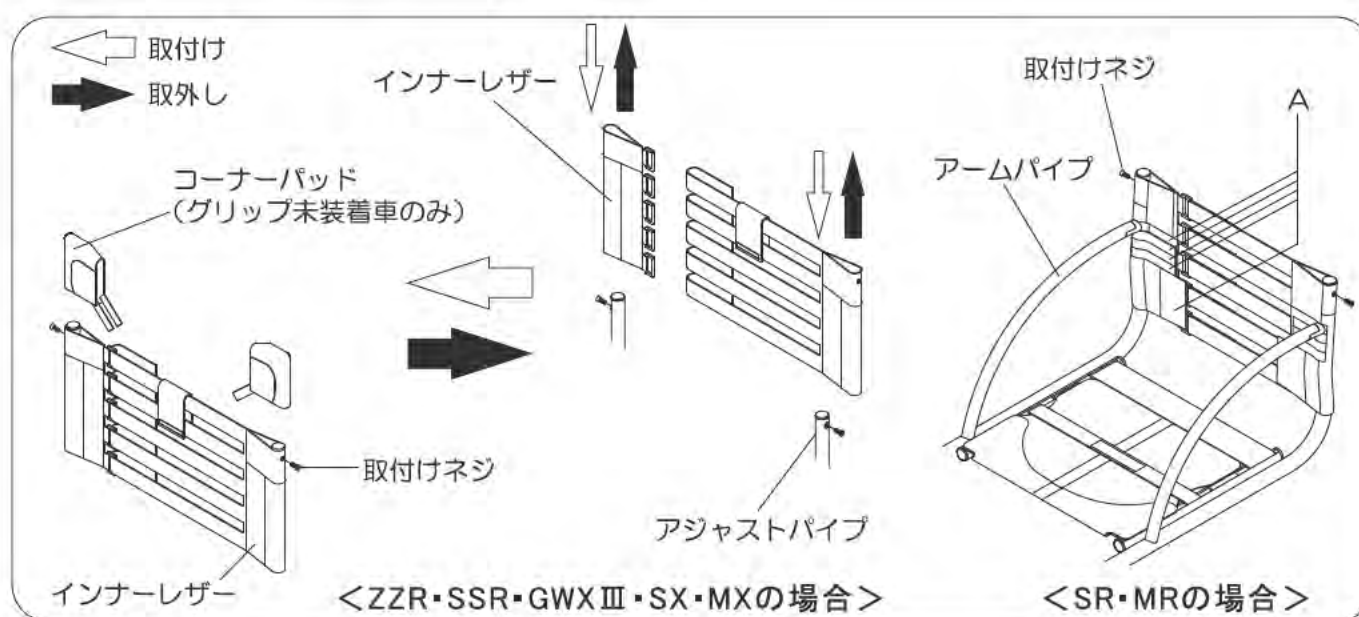
面ファスナーは確実に貼付ける。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

⚠注意

面ファスナーに付着したほこりや糸くずなどは取除く。
＊固定力が低下して調整状態が変わってしまいます。

＜インナーレザーの取付け＞【図2-23】

1）バックレストにインナーレザーを差込む。
2）インナーレザーの左右を取付けネジでアジャストパイプに固定する。
※グリップ装着車の場合は＜バックレスト高の調整＞(P.37)を参照し、グリップの高さを調節した後に行う。
3）左右の「A」の面ファスナーをフレームに巻きつける。(SR・MRのみ)
※「A」の面ファスナーでアームパイプの位置に来る場所はフレームに巻きつけずに貼付ける。
4）＜インナーレザーの調整＞(P.35)を行う。
5）サイドレザーを取付ける。(ZZR・SSR・GWXⅢ・SX・MXのみ)(P.33)
6）ヒップレザーを取付ける。(P.32)
7）コーナーパッド(グリップ未装着車のみ)を取付け、アウターレザーを取付ける。(P.31)
8）アームレスト装着車はアームレストを取付ける。(P.50)

取付けネジ締付けトルク　4N・m(0.4kgf・m)

【図2-23】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜バックレスト高の調整＞【図2-24】

オプションの「グリップ」の付いたバックレストも同様の調整方法です。

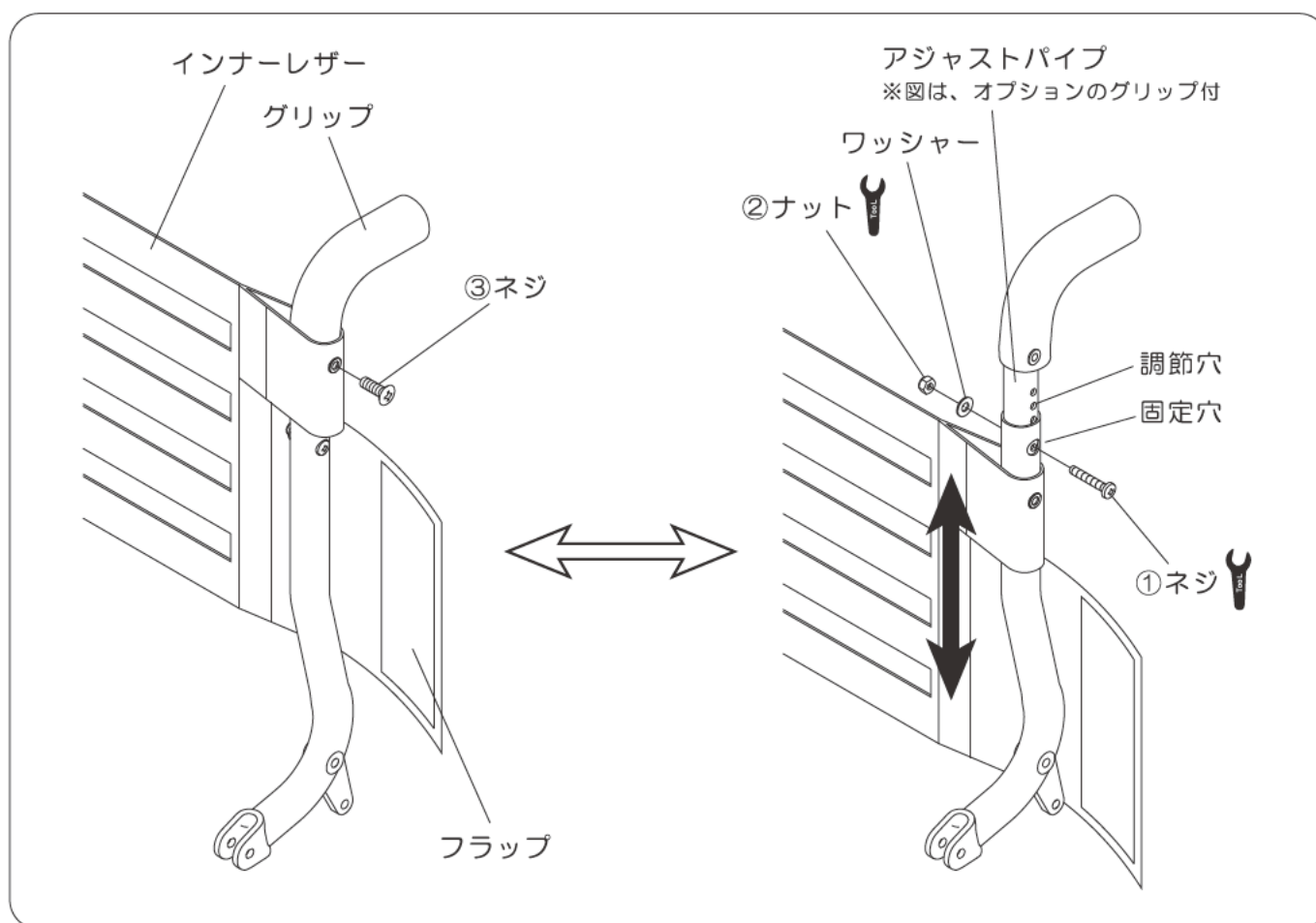
1）アームレスト装着車はアームレストを取外す。(P.50)
2）インナーレザーのフラップの面ファスナーをはがす。
3）③ネジを外して、インナーレザーを押し下げ、①ネジ、②ナット、ワッシャーを露出させる。
4）①ネジ、②ナット、ワッシャーを外す。
5）アジャストパイプを上下させて最適な高さに調節する。
6）①ネジを固定穴と調節穴に通し、②ナット、ワッシャーで締付ける。
7）反対側も同様に同じ高さに調節する。
8）③ネジを取付ける。
9）インナーレザーのフラップの面ファスナーを貼付ける。
10）アームレスト装着車はアームレストを取付ける。(P.50)

①ネジ締付けトルク	6N•m(0.6kgf•m)
③ネジ締付けトルク	4N•m(0.4kgf•m)

⚠注意

左右のバックレスト高は必ず同じにする。
＊車いすが破損するおそれがあります。
＊アジャストパイプの調節穴の位置を左右で合わせてください。

⚠注意

フラップの面ファスナーは確実に貼付ける。
＊インナーレザーが破損するおそれがあります。
＊ベルトの張りが適切にならず、褥瘡(じょくそう)などができるおそれがあります。

【図2-24】

バックレスト及びレザー類の調整・点検

＜シートレザーの張り調整＞【図2-25】

1）カバーシートレザーを取外す。
2）ベルト(シートレザー)下側の面ファスナーで、前後各部のベルトと折りたたみベルトの張りを調整する。
3）シートパイプが「受け」にしっかりと乗っていることを確認する。(P.15)

※シートパイプが浮いていると、クロスメンバーの破損につながります。必ずシートパイプは「受け」に乗せてください。

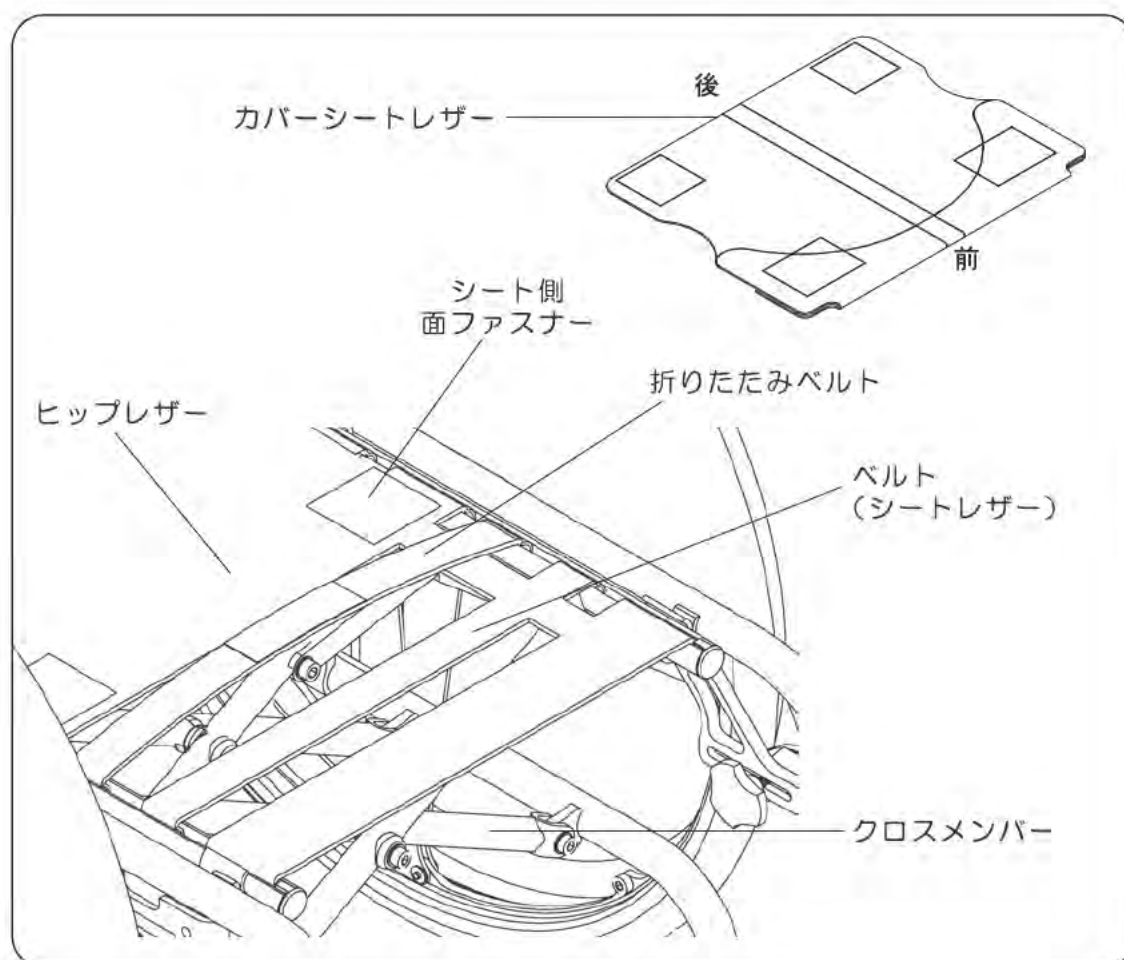
4）ヒップレザーのシート側の面ファスナーをはがし、ベルト(シートレザー)の張りに合わせて貼りなおす。
5）カバーシートレザーを折りたたみベルトの下を通して取付ける。

⚠注意

シートレザーの張り調整は「張り過ぎ」「緩め過ぎ」に注意する。

＊車いすが破損するおそれがあります。
＊フレームなど硬い部分が身体に接触し、褥瘡(じょくそう)などができるおそれがあります。
＊車いすが開いた状態でしっかりとクロスメンバーがフレームの「受け」に収まっていることを確認してください。(P.15)

＜レザーの点検＞

乗車前に必ず、自分の状態に最適な張り調整になっているか点検してください。

【図2-25】

車軸位置の調整・点検

<キャンバーの有無（エキセントリックカラー）>

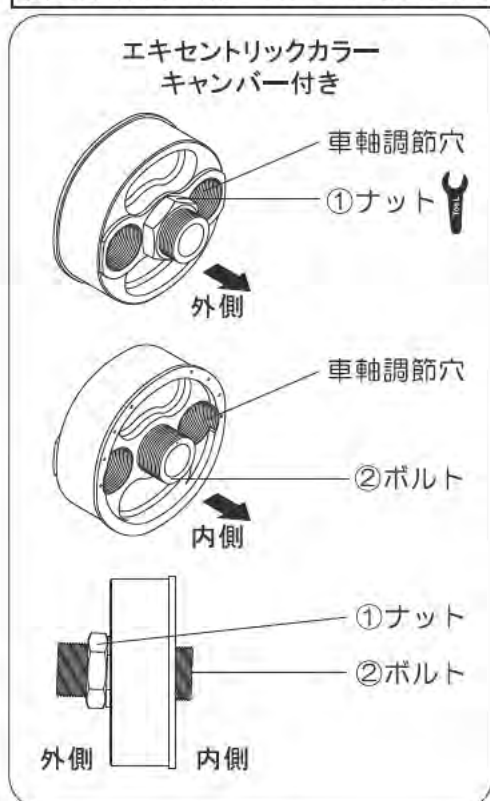
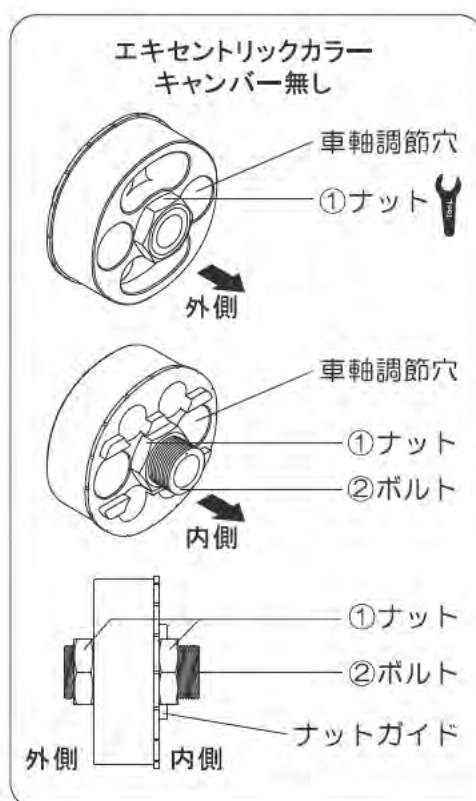
【図2-26】【図2-27】

キャンバーの有無はエキセントリックカラーの車軸調節穴のネジ切りの有無で確認できます。ネジ切りの無いものはキャンバー無し（0°）、ネジ切りの有るものはキャンバー付き（−2°）です。

<車軸調節穴の変更（エキセントリックカラー）>

【図2-26】【図2-27】

1）ブレーキを解除する。車軸を前方へ移動する場合はあらかじめブレーキ位置を前方へ移動する。(P.19・20)
2）ホイールを外す。(P.16)
3）フレーム外側の①ナットを外す。
4）フレーム内側から②ボルトを抜く。
5）最適な位置の車軸調節穴に②ボルトを差込む。GWXⅢはカラーを回転させることで調整範囲が変わります。
6）「キャンバー無し」のみフレーム内側の①ナットをナットガイドに合わせる。【図2-27】
7）フレーム外側の①ナットからの②ボルトの「突き出し」をP.43の<ホイール取付け間隔の調整（エキセントリックカラー）>に従い調整して、フレーム外側の①ナットを締付ける。
8）左右同じ位置にする。
9）ホイールを取付けて(P.16)ブレーキを調整する。(P.19・20)
10）キャスター角を調整する。(P.47)

①ナット締付けトルク　60N・m(6.0kgf・m)

⚠警告

「キャンバー無し」の内側の①ナットは確実にナットガイドに合わせる。
＊②ボルトが抜け、転倒・転落のおそれがあります。

⚠警告

「車軸位置の調整」を行ったときは、必ずアームレストとタイヤが接触していないか確認する。
＊ホイールが外れたり車いすが破損し転倒・転落のおそれがあります。

⚠警告

「車軸位置の調整」を行ったときは、必ずブレーキが確実にかかるか確認する。
＊転倒・転落のおそれがあります。

⚠警告

車軸を前方へ移動する調整を行った際は、十分注意して車いすに乗車する。
＊後方へ転倒するおそれがあります。
＊調整後初めて乗るときは、ゆっくりと乗車してください。

エキセントリックカラー
キャンバー付き

車軸調節穴
①ナット
外側
車軸調節穴
②ボルト
内側
①ナット
②ボルト
外側　内側

【図2-26】

エキセントリックカラー
キャンバー無し

車軸調節穴
①ナット
外側
車軸調節穴
①ナット
②ボルト
内側
①ナット
②ボルト
ナットガイド
外側　内側

【図2-27】

車軸位置の調整・点検

<後座高の調整(エキセントリックカラー)>

【図2-28】【図2-29】

「キャンバー無し」のみエキセントリックカラーを回転移動し、後座高の調整を行えます。

※ZZR・SSRは下記以外の調整方法もございます。詳しくはP.41の<後座高の調整(ZZR・SSR)>をご覧下さい。

1）ホイールを取外す。(P.16)
2）エキセントリックカラーを固定しているボルトを緩める。
3）エキセントリックカラーの内側のマークを目安に、最適な位置までエキセントリックカラーを回転させる。
4）エキセントリックカラーを外側に押付けながらボルトを締める。
5）マークを目安に左右同じ位置に調整する。
6）ホイールを取付ける。(P.16)
7）ブレーキを調整する。(P.19•20)
8）キャスター角を調整する。(P.47)

ボルト締付けトルク　15N•m(1.5kgf•m)

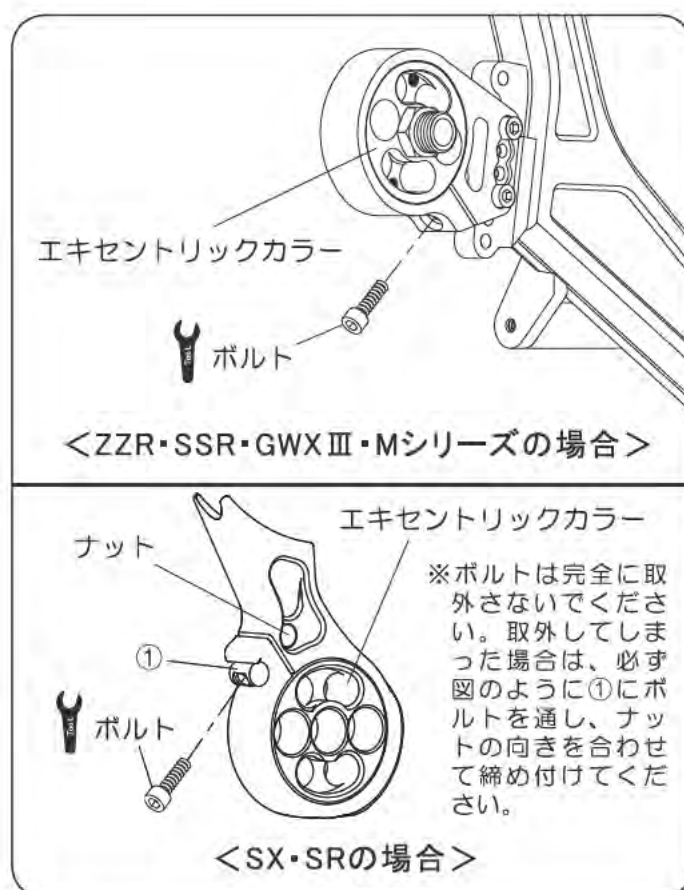
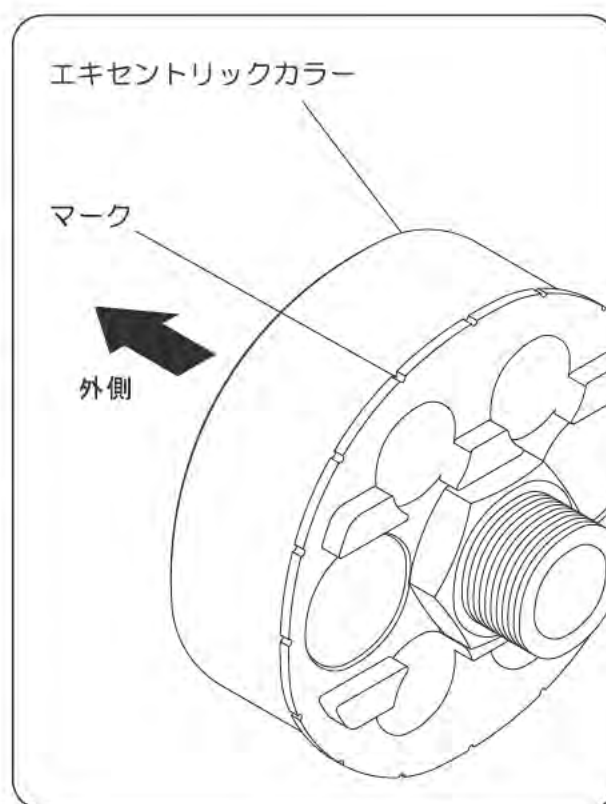
⚠警告

ボルトはエキセントリックカラーを外側に最後まで押付けながら締める。

＊エキセントリックカラーが抜け転倒・転落のおそれがあります。
＊ホイールとフレームなどが接触し車いすが破損するおそれがあります。

⚠警告

調整後は、必ずブレーキが確実にかかるか確認する。

＊ブレーキが機能せず、思はぬ事故のおそれがあります。
＊必ずブレーキの調整を行ってください。(P.19•20)

【図2-28】

【図2-29】

車軸位置の調整・点検

＜後座高の調整（ZZR・SSR）＞【図2-30】

ホイール軸受けユニットの取付上下位置を変える事により、後座高の調節が行えます。出荷状態は「標準位置」に取付けており、下図の範囲内で後座高調節が可能です。

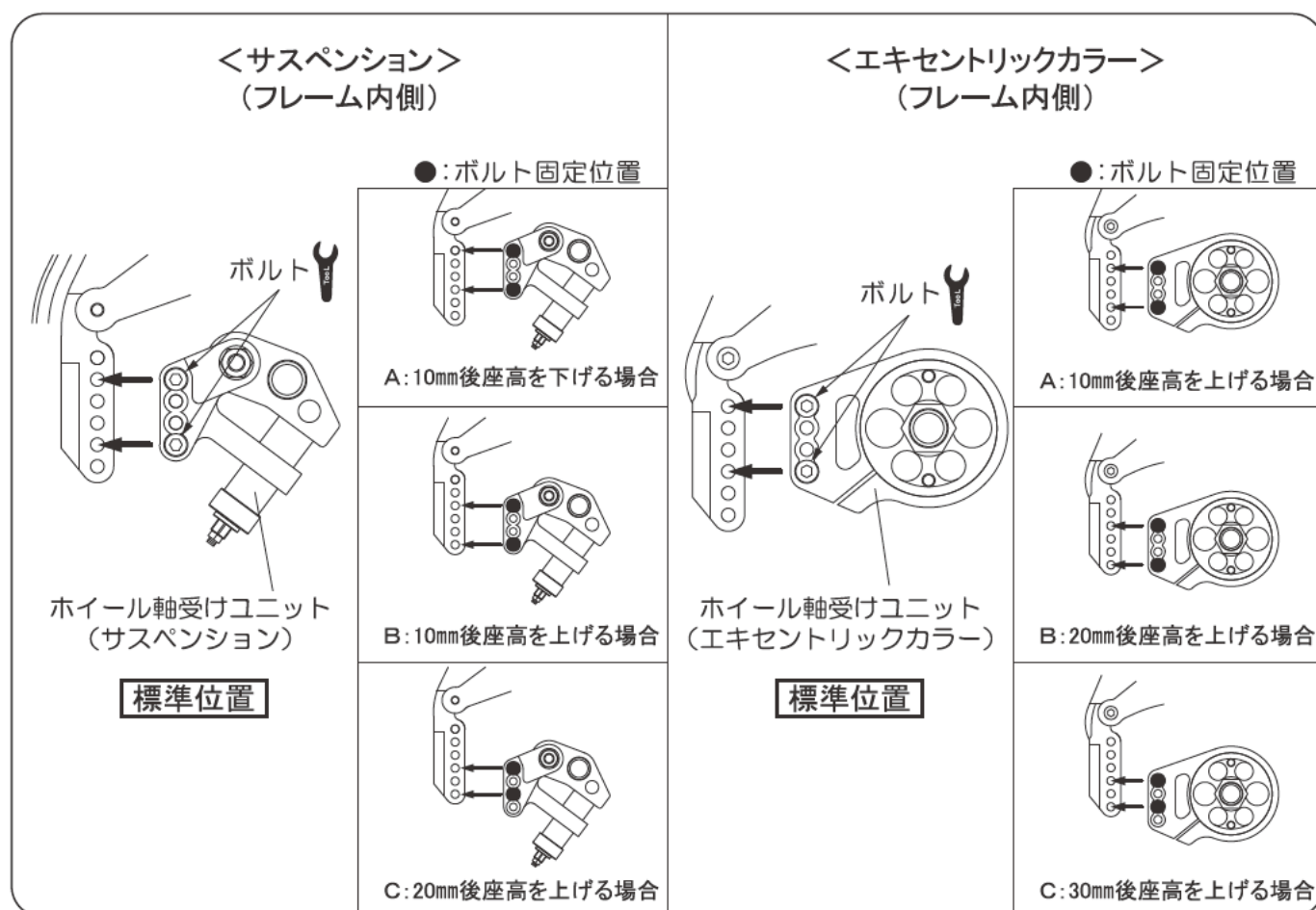
1）ホイールを外す。（P.16）
2）フレーム内側のボルトを外す。
3）ホイール軸受けユニットを、調節したい方向にずらす。
4）A、Bの位置に調節する場合は、ボルトはホイール軸受けユニットの４つのボルト穴のうち、上から１番目の穴と４番目の穴を使って固定する。
Cの位置に調節する場合は、ボルトはホイール軸受けユニットの４つのボルト穴のうち、上から１番目の穴と３番目の穴を使って固定する。
5）ボルトを締める。
6）ホイールを取付ける。（P.16）
7）左右同じ高さに調節する。

ボルト締付けトルク　15N・m（1.5kgf・m）

⚠警告

ホイール軸受けユニットの上下調節範囲とボルトの固定位置は必ず規定範囲内で調節・取付して下さい。
＊ホイール軸受けユニットのガタや脱落が発生し車いすが不安定になり転倒・転落のおそれがあります。

⚠警告

「車軸位置の調整」を行ったときは、必ずアームレストとタイヤが接触していないか確認する。
＊ホイールが外れたり車いすが破損し転倒・転落のおそれがあります。

【図2-30】

車軸位置の調整・点検

<トー寸法の修正(キャンバー付きのみ)>【図2-31】

左右のタイヤ前部、後部の全幅寸法を同一の高さで測定し【図2-31】のAとBが同一寸法になるようにエキセントリックカラーを回転させて調整します。

1) 左右のボルトを緩める。

2) フレーム内側のマークを目安に左右のエキセントリックカラーを回転させ、トー寸法を0㎜(A=B)にする。

3) エキセントリックカラーをフレーム外側方向に押し付けながら左右のボルトを締める。

⚠警告

ボルトは必ずエキセントリックカラーを最後まで外側に押しつけながら締める。

＊エキセントリックカラーが外れ事故や転倒・転落のおそれがあります。また、ホイールのスポークがフレームに接触して、車いすが損傷するおそれがあります。

ボルト締付けトルク　15N・m(1.5kgf・m)

エキセントリックカラー

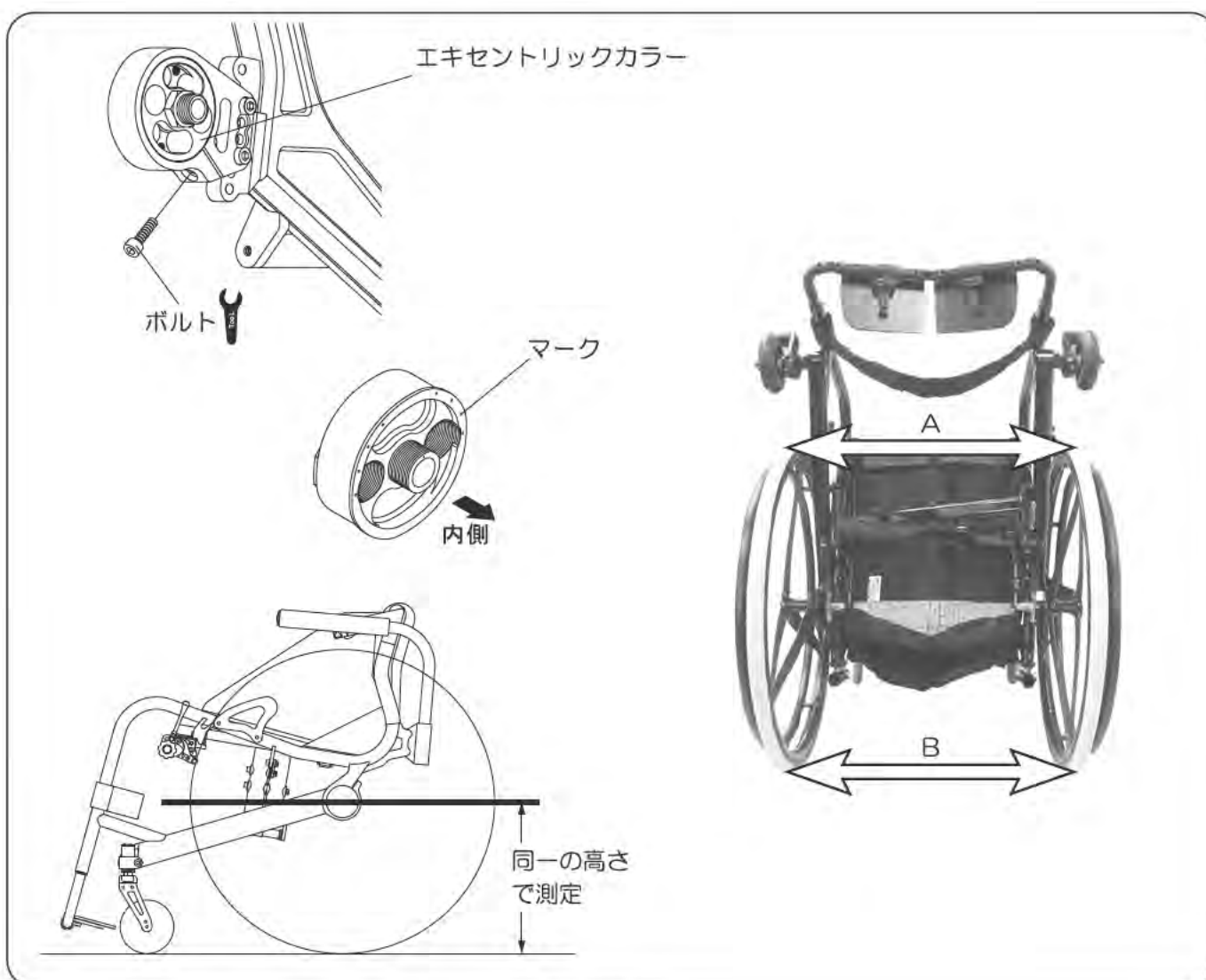
ボルト

マーク

内側

A

B

同一の高さで測定

【図2-31】

車軸位置の調整・点検

＜ホイール取付け間隔の調整（エキセントリックカラー）＞

【図 2-32】

ホイール取付け間隔は、下図に示す調整規定に従って調整してください。
※ホイールやブレーキの交換（種類の変更）を行った際は、必ず調整してください。

1）ホイールを外す。（P.16）
2）外側（フレーム外側）の①ナットを緩める。
3）調整規定に従い②ボルトを回して最適な取付け間隔にする。
4）内側（フレーム内側）の③ナットをナットガイド（キャンバー付きにはありません）に合わせる。
5）外側（フレーム外側）の①ナットを締める。
6）ホイールを取付ける。（P.16）
7）フレームやサイドレザーなどにホイールやタイヤが接触していないか確認する。
8）ブレーキが確実にかけられるか確認する。
9）左右同様に調整する。

⚠警告

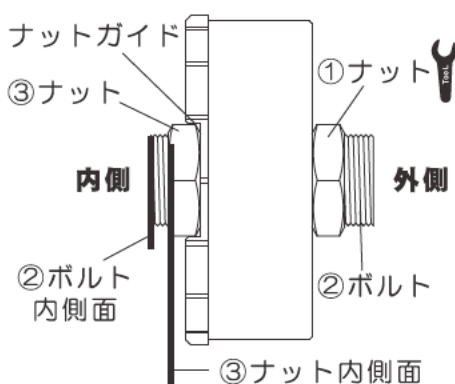
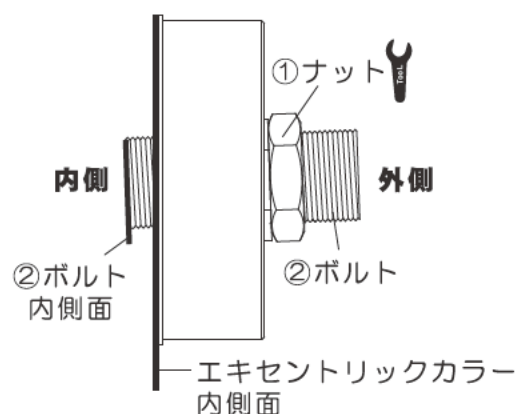
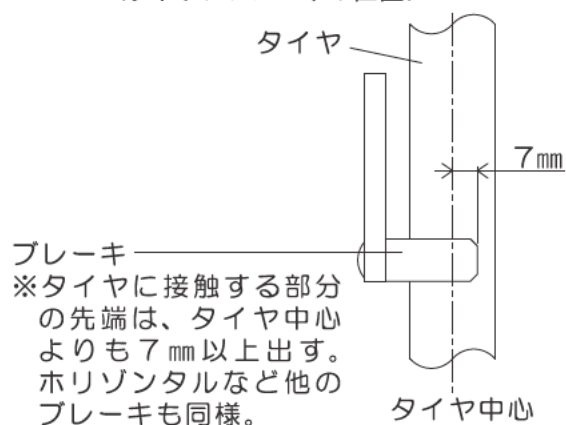
②ボルトの調整は必ず調整規定に従って調整する。
＊ホイールが外れ、転倒・転落のおそれがあります。また、事故や車いすを破損するおそれがあります。

⚠警告

調整後は、必ずブレーキが確実にかかるか確認する。
＊転倒・転落のおそれがあります。

①ナット締付けトルク　60N•m(6.0kgf•m)

＜エキセントリックカラー　キャンバー無し＞

ナットガイド
③ナット
①ナット
内側
外側
②ボルト
内側面
②ボルト
③ナット内側面

＜エキセントリックカラー　キャンバー付き＞

＜タイヤ / ブレーキの位置＞

【調整規定】
次の条件を満たす範囲で調整してください。
・②ボルト内側面は、③ナットフレーム内側面に対し、同一または内側に出す。
・②ボルト調整後、図に示すように、タイヤに対するブレーキの位置は、7㎜以上にする。
・調整後、ホイールなどの回転部が、フレームやレザーに接触させない。

【図2-32】

車軸位置の調整・点検

＜ホイール取付け間隔の調整（サスペンション）＞

【図2-33】【図2-34】

サスペンションユニット外側（フレーム外側）の「A」の突き出し量を調整する事によりフレームからのホイール取付け間隔が調整できます。

1）ホイールを外す。（P.16）
2）フレーム外側の①ナットを緩める。【図2-33】
3）②ボルトを回し「A」の寸法を3～8㎜の範囲内で適切な取付間隔に調整する。【図2-34】
4）フレーム外側の①ナットを締める。【図2-33】
5）ホイールを取付ける。（P.16）
6）フレームやサイドレザーなどにホイールやタイヤが接触していないか確認する。
7）ブレーキが確実にかけられるか確認する。
8）6）、7）で異常があれば、2）～7）を再度行う。
9）左右同じ位置に調整する。

⚠警告

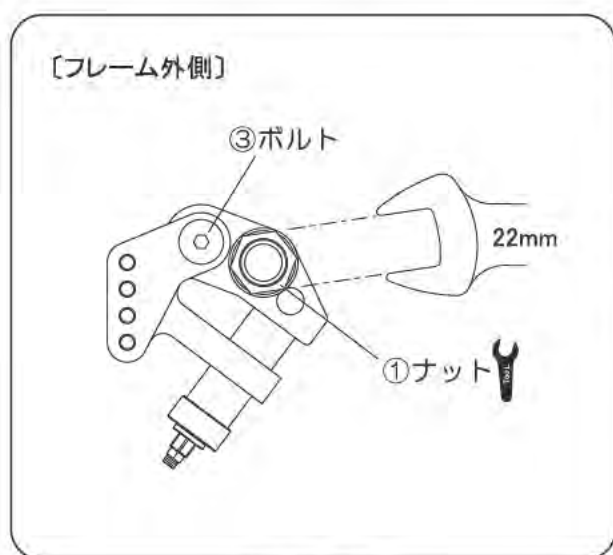
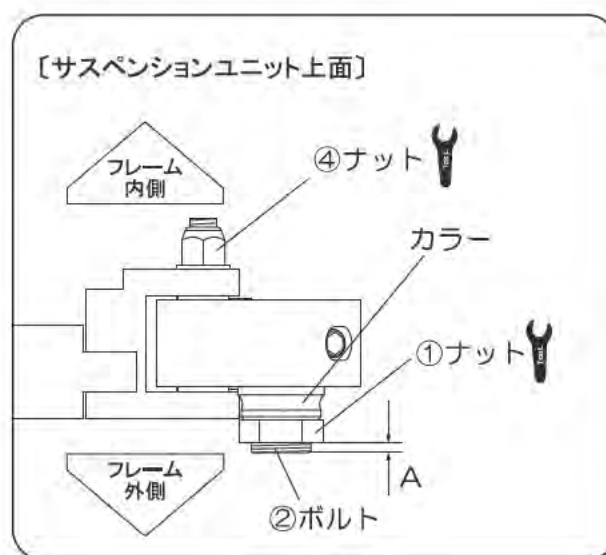
②ボルトの突き出し量「A」は必ず指定範囲内で調整して下さい。
＊ホイールが外れ、転倒・転落のおそれがあります。

⚠警告

調整後は、必ずブレーキが確実にかかるか確認する。
＊転倒・転落のおそれがあります。

＜サスペンションユニットの点検＞【図2-33】【図2-34】

③ボルトと④ナットについて緩みや脱落がないか確認してください。
上記のような症状が見られたら使用を止め、販売店に連絡してください。
その他各所に緩みやガタがないか点検してください。

①ナット締付けトルク	60N•m(6.0kgf•m)
③ボルト締付けトルク	25N•m(2.5kgf•m)
④ナット締付けトルク	25N•m(2.5kgf•m)

【図2-33】

【図2-34】

車軸位置の調整・点検

<クッション樹脂の交換･硬さ調整（サスペンション）>

【図 2-35】【図 2-36】

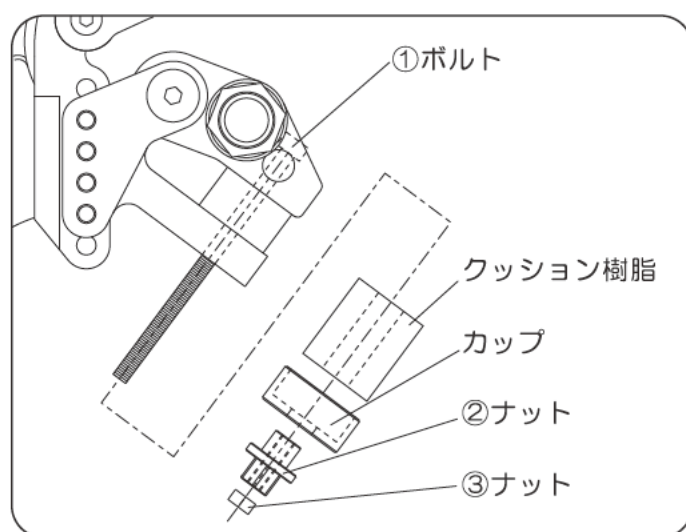
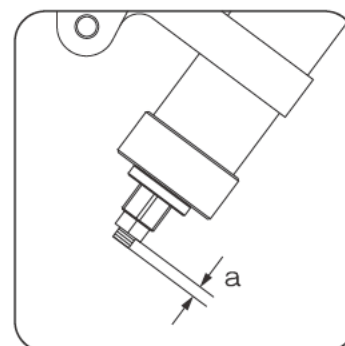
⚠警告

①ボルト突き出し量「a」は、必ず指定範囲内で調整して下さい。
＊①ボルトが外れ急にサスペンションが沈み転倒･転落のおそれがあります。

クッション樹脂を硬さの違う物に変える事により、サスペンションの硬さ調整ができます。
（出荷時：柔らかめ／付属のクッション樹脂：硬め）
また、①ボルトの締付け具合でも硬さ調整ができます。

1）ホイールを外す。（P.16）
2）①ボルトを六角レンチで押さえながら②③ナット・カップ・クッション樹脂を外す。
3）付属のクッション樹脂を①ボルトの下端から差込む。
4）カップを①ボルト下方に差し込み、②③ナットを差込む。
5）②ナットが回らないよう10㎜スパナで押さえながら、③ナットを締込む。
6）③ナットからの①ボルトの突き出し量「ａ」を3～10㎜以内で調整する。
7）ホイールを取付ける。（P.16）
8）左右同じ硬さに調整する。

<クッション樹脂の点検>【図2-35】

クッション樹脂は紫外線などにより劣化します。
ひび割れや極端な変形などの異常がないか、定期的に点検してください。異常が有る場合は、使用を止め、販売店に連絡してください。

【図2-35】

【図2-36】

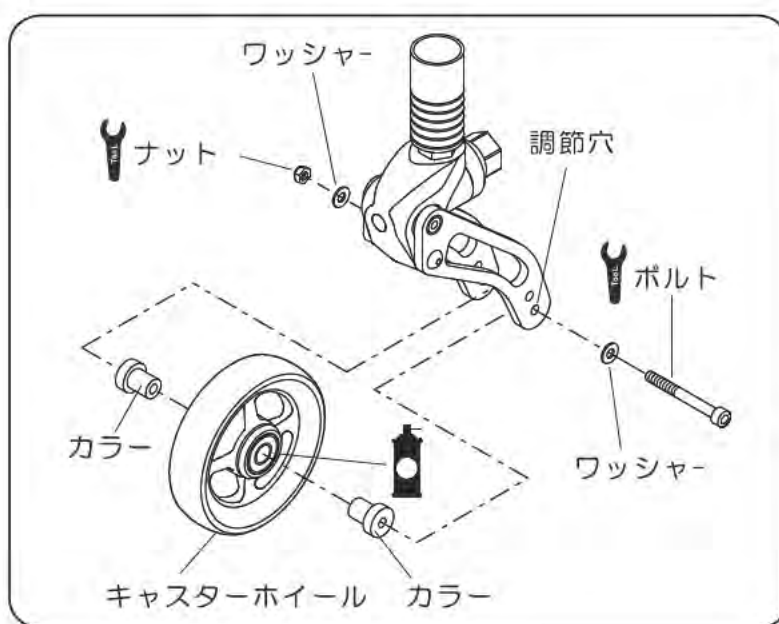
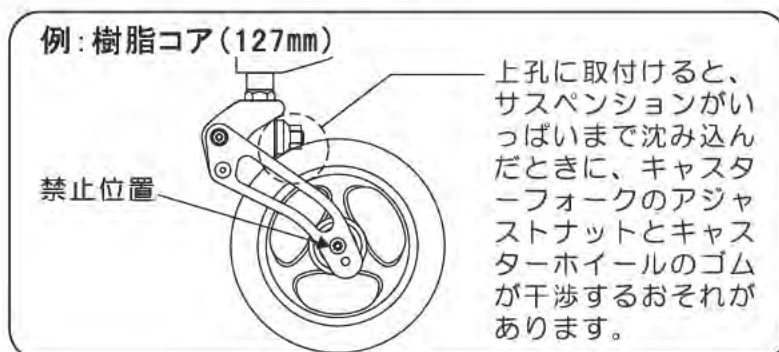
キャスターの調整・点検

＜前座高の調節＞【図 2-37】【図 2-38】

キャスターフォークの調節穴を使用して調節します。

注意：キャスターフォークにSFR2またはSFR2ショートを使用している場合、下記のキャスターホイールは部品干渉が発生するおそれがありますので、調節することができません。【図2-38】
出荷時の位置にてご使用ください。
[ZZR・SSR・GWXⅢ]キャスターホイール：LPC4（105 ㎜）・樹脂コア（105 ㎜）
[SX・SR・M シリーズ]キャスターホイール：LPC4（125 ㎜）・樹脂コア（127 ㎜）

1）ボルト、ワッシャー、ナットを外す。
2）キャスターホイールの左右にカラーが組み込まれた状態で最適な調節穴に合わせる。
3）ボルト、ワッシャー、ナットを締付ける。
4）左右同じ調節穴になるように調節する。
5）キャスター角を調整する。（P.47）

ボルト締付けトルク　10N・m（1.0kgf・m）

⚠警告

必ず左右同じ高さの調節穴を使用する。
＊車いすが不安定になり転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠警告

【図2-38】の取付け方はしない。
＊キャスターフォークとキャスターホイールが干渉し、転倒・転落のおそれがあります。また、車いすが破損します。

⚠警告

キャスターホルダーは、必ず地面に対して垂直にする。
＊車いすが破損して、事故や転倒・転落のおそれがあります。

【図2-37】

【図2-38】

キャスターの調整・点検

＜キャスター角の調整＞【図2-39】【図2-40】【図2-41】

1）ボルトを緩める。
2）市販のゲージを当てながらキャスターホルダーを垂直にする。
3）フレーム内側の突き出し量「A」が規定範囲内（下記＜トレッドの調整＞参照）であることを確認する。
4）ボルトを締める。
5）左右同様に調整する。

⚠警告

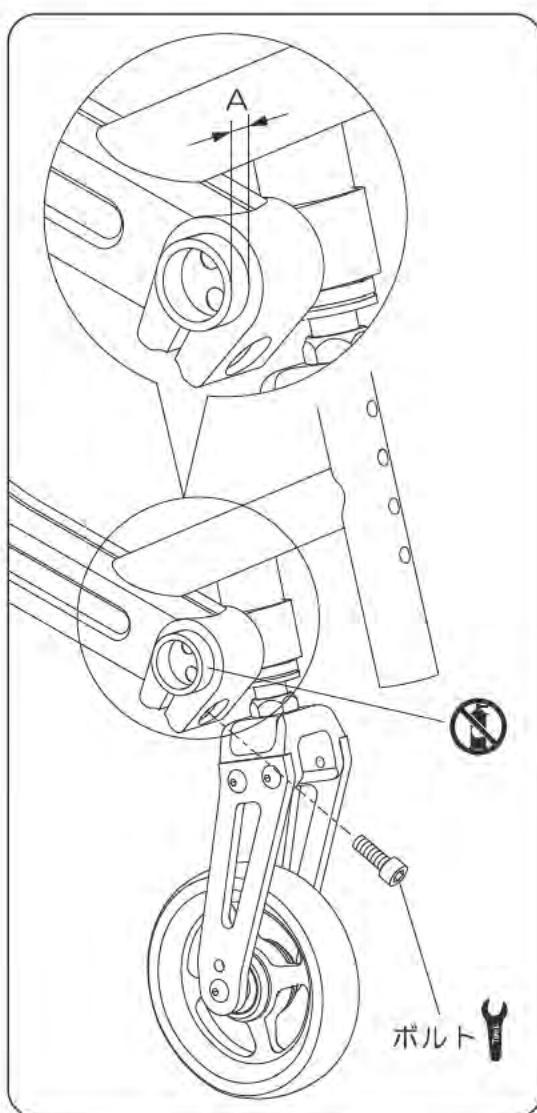
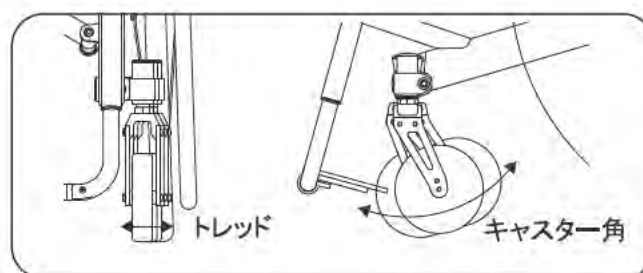
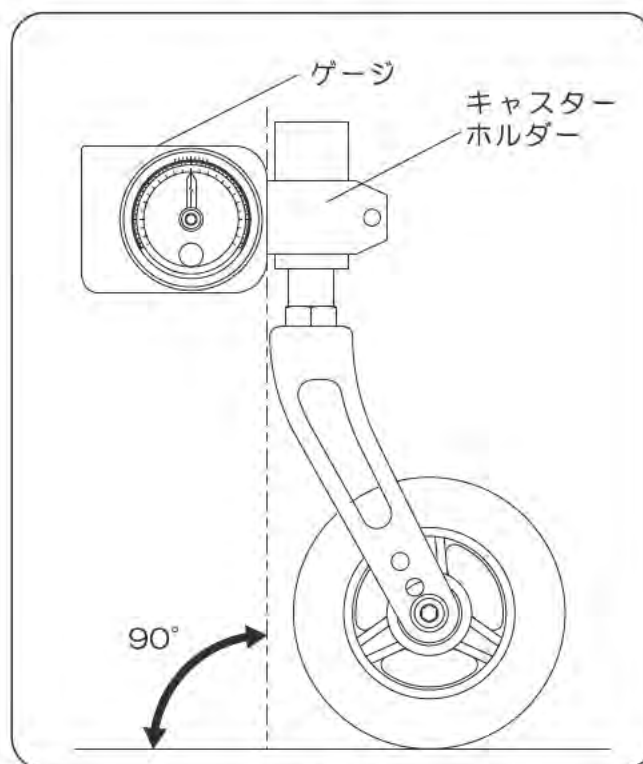
ボルトは必ず規定トルクで締める。
＊キャスターが回転・破損して事故や転倒・転落のおそれがあります。

＜トレッドの調整＞【図2-39】【図2-40】

上記＜キャスター角の調整＞同様にボルトを緩め、キャスターのトレッド（接地幅）を調整してボルトを締めます。**この時フレーム内側の「A」の突き出し量は、必ず0～5㎜以内で調整してください。**
調整後は必ず上記＜キャスター角の調整＞を行ってください。

⚠警告

「A」の突き出し量は必ず0～5㎜以内にする。
＊キャスターが抜け転倒・転落のおそれがあります。

ボルト締付けトルク　25N・m（2.5kgf・m）

【図2-40】

【図2-39】

【図2-41】

キャスターの調整・点検

<ハイトの調整（GWXⅢを除く）>【図2-42】【図2-43】

主に車軸位置やホイール、キャスターホイール径の変更による前後差（前座高と後座高の差）の変化を修正するために行います。

1）ボルトを緩める。
2）aを下にさげる。
3）aの溝からCリングを外す。
4）６箇所の溝の中から最適な高さになる溝にCリングをはめる。
5）bの下側の段付き面にCリングが当たるまでaを下から差込む。
6）ボルトを締める。
7）反対側も同じ高さになるように調節する。
8）キャスター角の調整をする。（P.47）

⚠警告

ボルトは必ず規定トルクで締める。
＊キャスターが脱落・破損して事故や転倒・転落のおそれがあります。

⚠警告

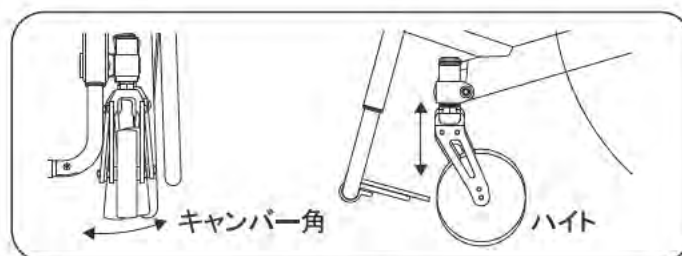
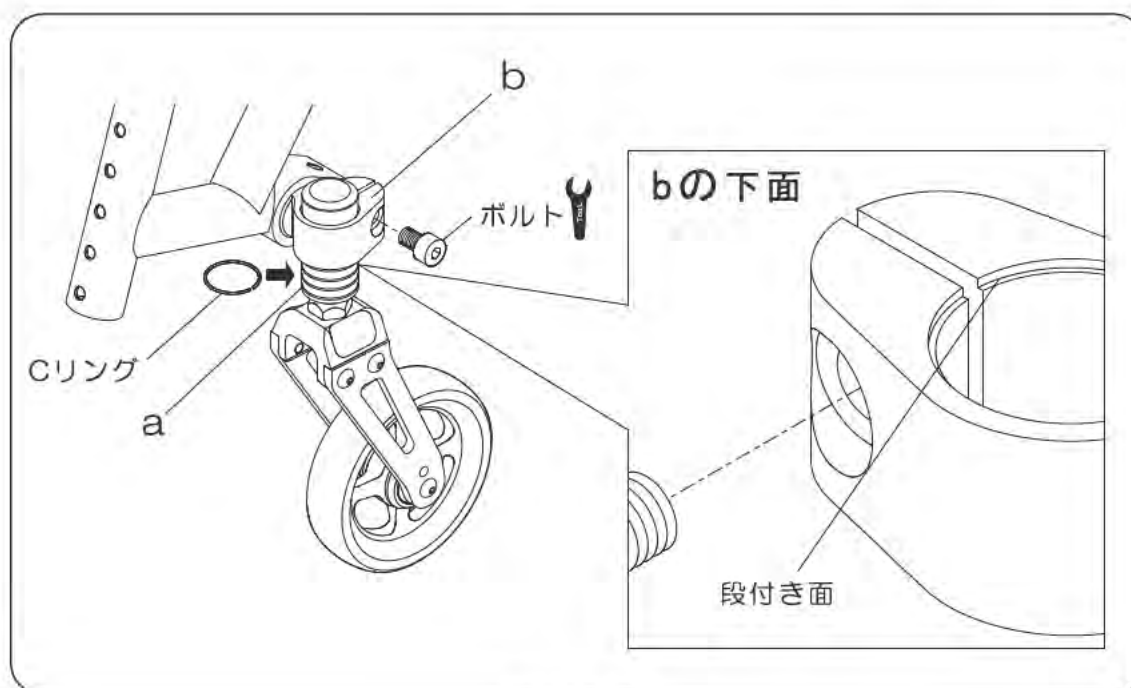
必ず段付き面にCリングが当たるまで「a」を差込む。
＊キャスターが脱落・破損して事故や転倒・転落のおそれがあります。

<キャンバー角の調整>【図2-42】

通常は必要ありません。調整が必要な場合は、販売店にご依頼ください。

<キャスターの点検>

ボルトの緩みはないか。
曲がり、破損、異音、回転不良はないか。
ゴムは十分に残っているか。

ボルト締付けトルク　10N・m（1.0kgf・m）

【図2-42】

【図2-43】

キャスターの調整・点検

<ハイトの調整（GWXⅢ）>【図2-44】

主に車軸位置やホイール、キャスターホイール径の変更による前後差（前座高と後座高の差）の変化を修正するために行います。

1）ボルトを緩める。
2）aのA穴に4㎜の六角レンチを差込み固定する。
3）キャスターフォークを回し緩め、抜く。
4）bの上下を反転させる。
5）cをbに差込み、aを固定したままキャスターフォークを回し、ガタ無くスムーズに動く位置で、止めネジを締め固定する。
6）ボルトを締める。
7）反対側も同様に調整。
8）キャスター角の調整をする。（P.47）

⚠警告

ボルトは必ず規定トルクで締める。
＊キャスターが脱落・破損して事故や転倒・転落のおそれがあります。

<キャンバー角の調整>【図2-42】（P.48）

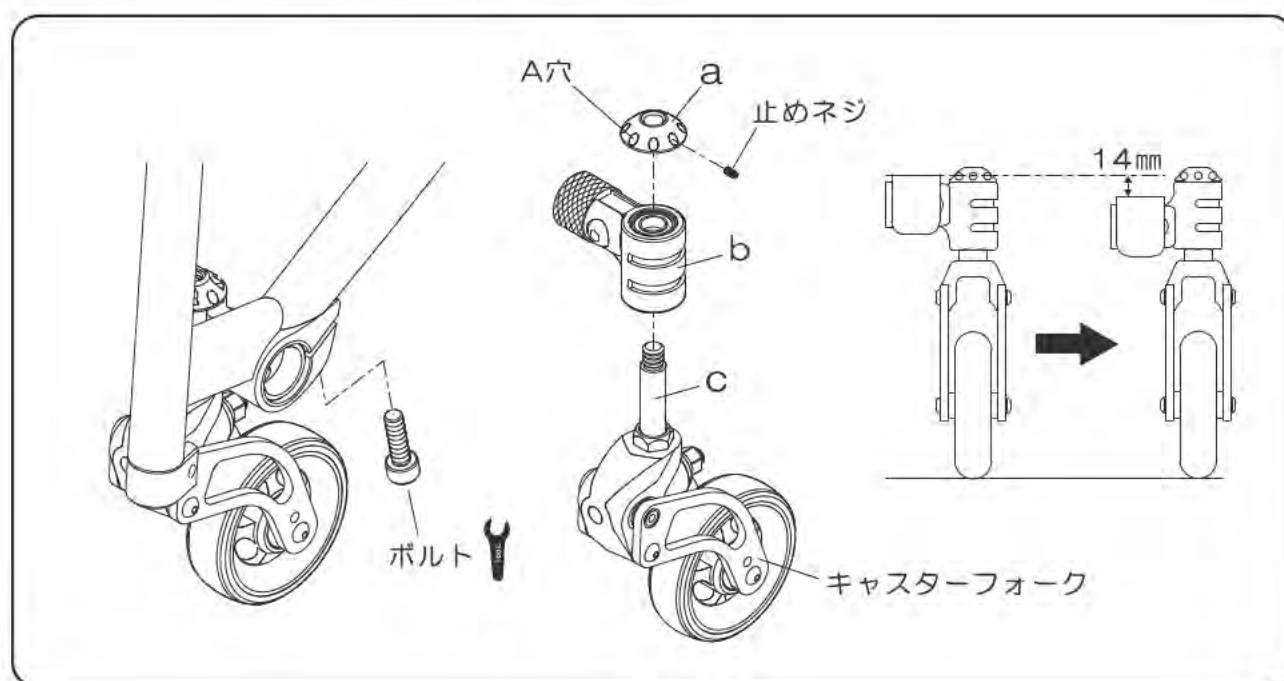
通常は必要ありません。調整が必要な場合は、販売店にご依頼ください。

<キャスターの点検>

ボルトの緩みはないか。
曲がり、破損、異音、回転不良はないか。
ゴムは十分に残っているか。

ボルト締付けトルク	25N・m（2.5kgf・m）
止めネジ締付けトルク	6N・m（0.6kgf・m）

【図2-44】

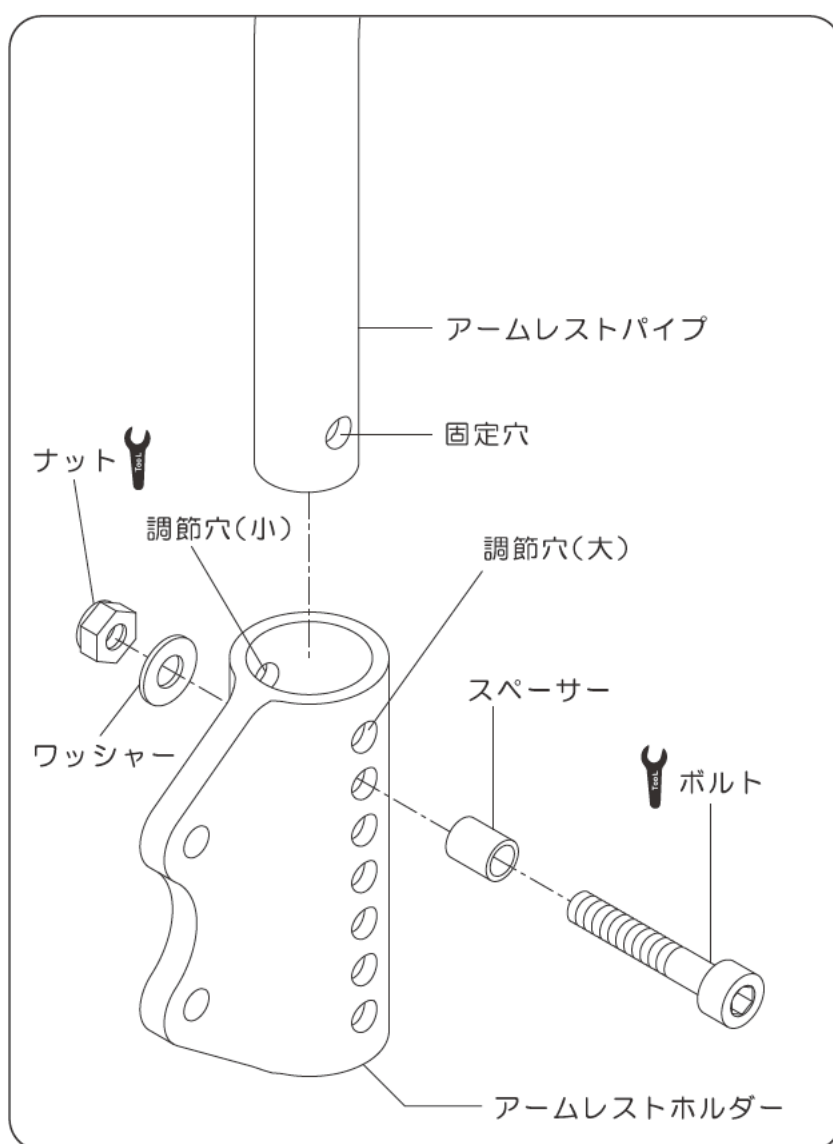
P.50.pdf 1 2013/04/23 17:35:07

アームレストの調整・点検

＜アームレスト高の調節＞【図2-45】

1）ボルト、ナット、ワッシャー、スペーサーを外す。
2）最適な位置の調節穴に固定穴を合わせる。
3）ボルト、ナット、ワッシャー、スペーサーで締付ける。
※このときスペーサーがアームレストホルダーの調節穴（大）に収まるように締付けます。
4）反対側も同様に調節する。

＜アームレストの点検＞

極端に大きなガタつきやネジ・ボルトの緩みがないか点検してください。

ボルト締付けトルク　10N・m（1.0kgf・m）

【図2-45】

⚠警告

ボルトを締付ける際は図の順序で組付ける。
＊アームレストが確実に固定されず事故のおそれがあります。

⚠警告

ボルトはスペーサーを調節穴(大)に収めてから締付ける。
＊アームレストが確実に固定されず事故のおそれがあります。
＊ボルトとアームレストパイプにスペーサーをはさみこむように締付けます。

⚠警告

アームレストとタイヤが接触していないことを確認する。
＊アームレストやタイヤを損傷させるおそれがあります。

その他の調整・点検

<SFR2の調整>【図 2-46】【図 2-47】

1）車いすに乗らない状態で、左右のSFR2の、【図2-46】で示す「A」の寸法を測定する。

2）普段の乗車姿勢で車いすに乗った状態で、1）と同様に【図2-46】の「A」の寸法を測定する。
※1）と2）の寸法の差は、5㎜程度が基本的な硬さです。

3）1）と2）の寸法の差が5㎜程度でない場合、アジャストナット【図2-46】を付属の工具を使い、次のとおり調整する。
※5㎜より小さい場合：【図 2-47】の「柔らかくなる」方向へ回す。
※5㎜より大きい場合：【図 2-47】の「硬くなる」方向へ回す。
※アジャストナットの調整は1回あたり、1/2～1/4 回転までとしてください。
※左右共、基本的な硬さ（上記1）と2）の寸法差が5㎜程）となるまで調整を繰り返してください。

4）調整後、実際に車いすを走行させ、乗り移り等も十分考慮したうえで最適な硬さであることを確認する。

<SFR2の調整範囲>【図 2-47】【図 2-48】

「柔らかくなる」方向

アジャストナットを【図 2-47】の「柔らかくなる」方向へあまり力を入れずに回して止まったところが最も柔らかい状態です。それ以上は無理に回さないでください。

「硬くなる」方向

アジャストナットを【図 2-47】の「硬くなる」方向へ回して、【図2-48】のMAXラインまでの範囲内で調整してください。

<ゴムダンパーについて>

●サスペンションケースのゴムダンパーは、初期のなじみによりサスペンションが柔らかくなりやすいので、適時に上記の調整を行ってください。

●ゴムダンパーは消耗品です。機能が低下した場合は交換してください。

【図2-46】

【図2-47】

【図2-48】

⚠警告

測定・調整は介助者等に行ってもらう。
＊無理な姿勢での作業は、バランスを崩し転落等のおそれがあります。

⚠警告

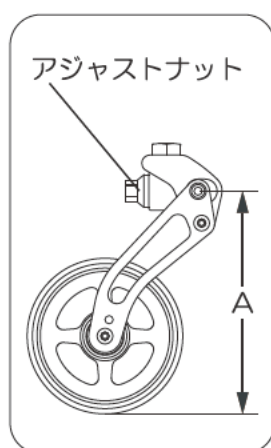
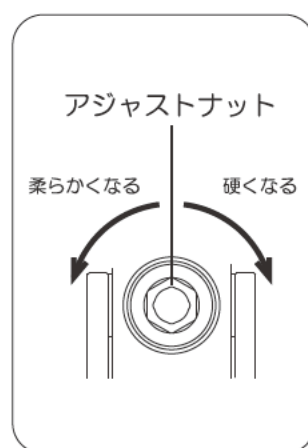
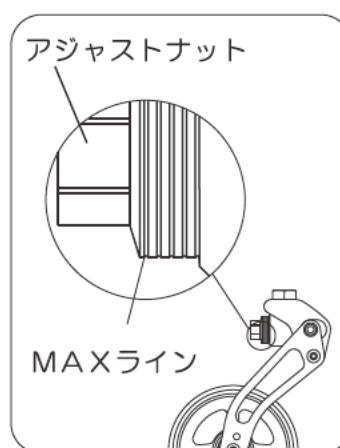
測定・調整は左右のキャスターが同様となるようにする。
＊左右の設定が異なった状態では、直進性が低下します。著しく異なる場合バランスを崩し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠警告

サスペンションの硬さの調整は一度に大きく変えない。
＊硬さが一度に大きく変化するとバランスを崩し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠警告

基本の硬さから柔らかくしすぎない。
＊乗り移り等で車いす前方に加重をかけた場合バランスを崩し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠警告

分解・改造等はしない。
＊キャスターフォークが破損し、事故・転落等のおそれがあります。

⚠注意

アジャストナットを無理に回さない。
＊アジャストナットの調整範囲をこえて無理に回そうとするとキャスターフォークを破損するおそれがあります。

その他の調整・点検

<レッグベルトの着脱>【図2-49】

取外し：レッグベルト裏側左右の面ファスナーをはがす。

取付け：最適な位置に面ファスナーを貼付ける。

※面ファスナーの貼付けしろは左右均等な長さになるようにしてください。

> **⚠注意**
>
> 面ファスナーの A 面（オス）が衣服に触れないように取付ける。
>
> ＊衣服を傷める恐れがあります。

<「LPC4」キャスターホイールのゴム交換>【図2-50】

「LPC4」キャスターホイールのゴムが、減ってきたり深い亀裂が入った時は、お買い求めの販売店でゴム交換を行ってください。

ご自分で交換される場合は、

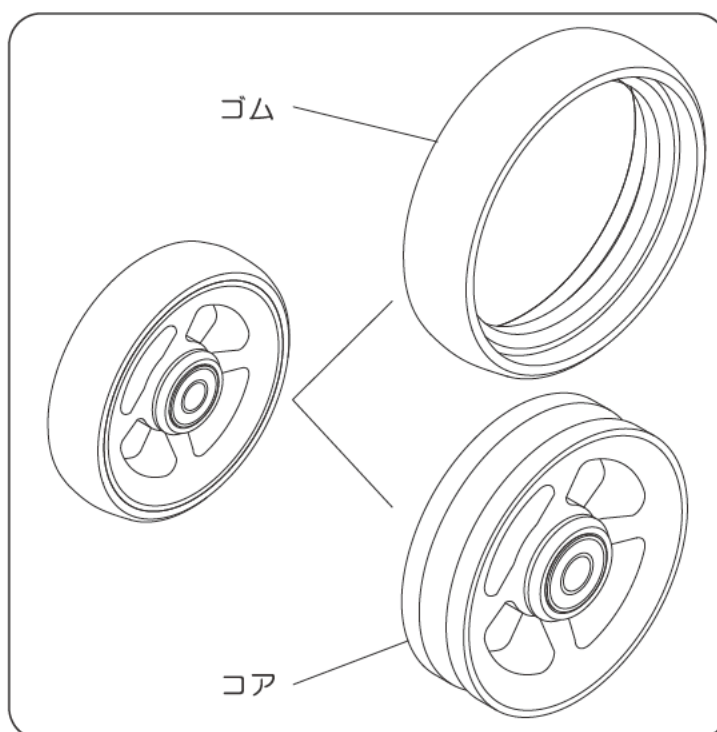
1）キャスターフォークからキャスターホイールを取外す。
　※P.46の<前座高の調節>を参照してください。

2）軍手など厚みのある手袋を着用して古いゴムをコアから取外す。

3）新しいゴムを伸ばしながらコアにはめ込む。
　※ある程度の力が必要です。

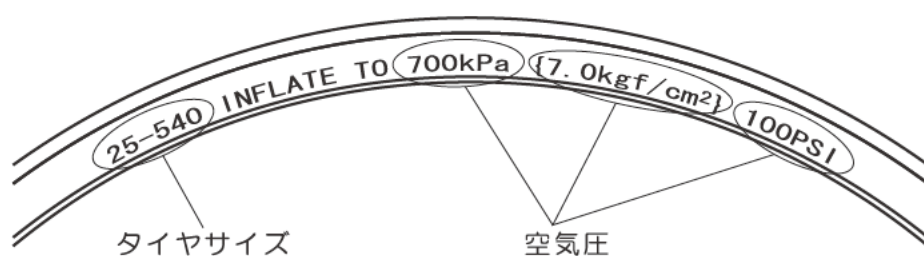
> **⚠注意**
>
> 「LPC4」キャスターホイールのゴム交換や清掃の際に潤滑剤やワックスなどの油分を使用しない。
>
> ＊ゴムが外れ事故のおそれがあります。
>
> ＊ゴムのひび割れなどの原因となります。

> **⚠注意**
>
> ご自分でゴム交換をされる場合は軍手などを着用する。
>
> ＊指などをはさみ危険です。

【図2-49】

【図2-50】

その他の調整・点検

＜タイヤの点検＞

1.亀裂、損傷、異物、溝の深さ、異常な磨耗などを点検します。
2.タイヤに異常がある場合はお買い求めの販売店で点検・整備を受けてください。
3.空気圧は適切か点検してください。

※十分空気が入っていて、タイヤに表示してある空気圧になっていること。
（図の数値は表示の例）
※使用する空気入れのメーター表記にしたがいタイヤに表記された空気圧の指示に合わせてください。

⚠注意

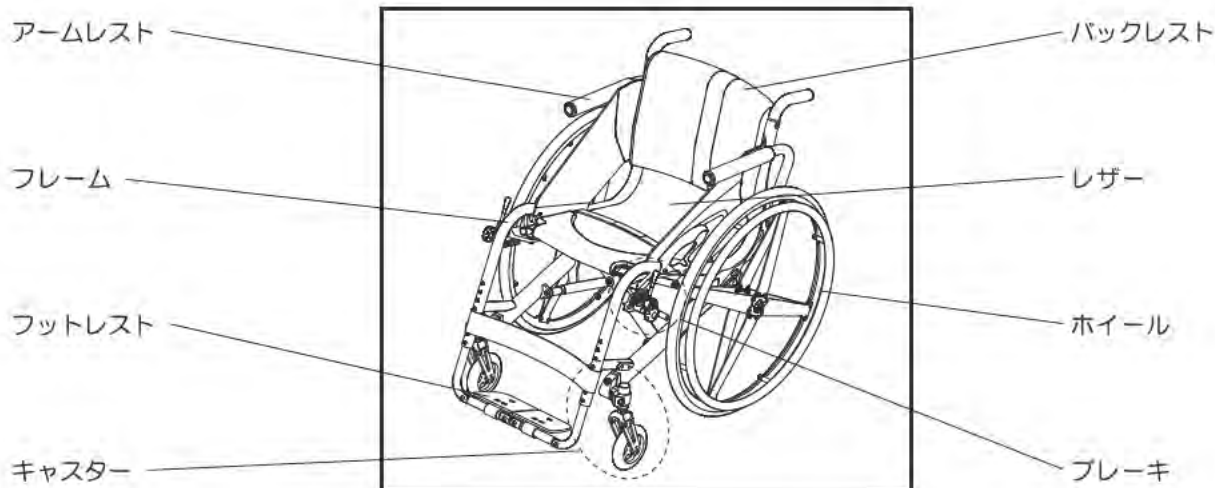
○パンクしたまま使用しないでください。
○空気圧が少ないと車いすの操作が重くなり、パンクしやすくなります。
○空気圧が少なすぎると、リムからタイヤが外れるおそれがあります。
○空気圧が多すぎると気圧や温度の変化でパンクするおそれがあります。
○左右の空気圧は同一にしてください。

＜ホイール回りの点検＞

1.ホイールやハンドリムの動きに異常が感じられたら、点検を行い必要に応じて清掃、注油、増し締めを行ってください。
2.ホイールシャフトの動きに異常が感じられたら、点検を行い必要に応じて清掃、注油を行ってください。

＜その他の点検＞

1.マークの付いている箇所は1か月に1回点検。
緩み、脱落、破損、異音が無いか点検してください。
2.キャスター回りは1か月に1回点検。
曲がり、破損、異音、回転不良が無いか点検してください。
3.ブレーキは毎日乗車する前に点検。
ブレーキの効き、ボルト・ナット類の緩み、脱落などが無いか点検してください。
4.アームレスト、グリップは毎日乗車する前に点検。
ぐらつき、大きなガタつき、ネジ・ナット類の緩み、異音が無いか点検してください。

日常・定期点検

＜日常点検＞

乗車前には、必ず次の点検を行ってください。
異常があった場合は、各部の調整を行ってください。
調整に不安がある方や、調整しても直らない場合はご使用を止め、販売店または当社営業所までご相談ください。
また、各部の調整を行った後も、必ず次の点検を行ってください。

- 全体的に極端に大きなガタつきやネジ・ボルトの緩み、ひび割れや極端な変形はないか。
- ブレーキの効き具合は適切か。
- タイヤの空気圧は十分か。
- レザーは自分の状態に最適な張り調整になっているか。

※1ヵ月に1回を目安として、ネジ・ボルトの緩みの点検、注油を行ってください。

＜定期点検＞

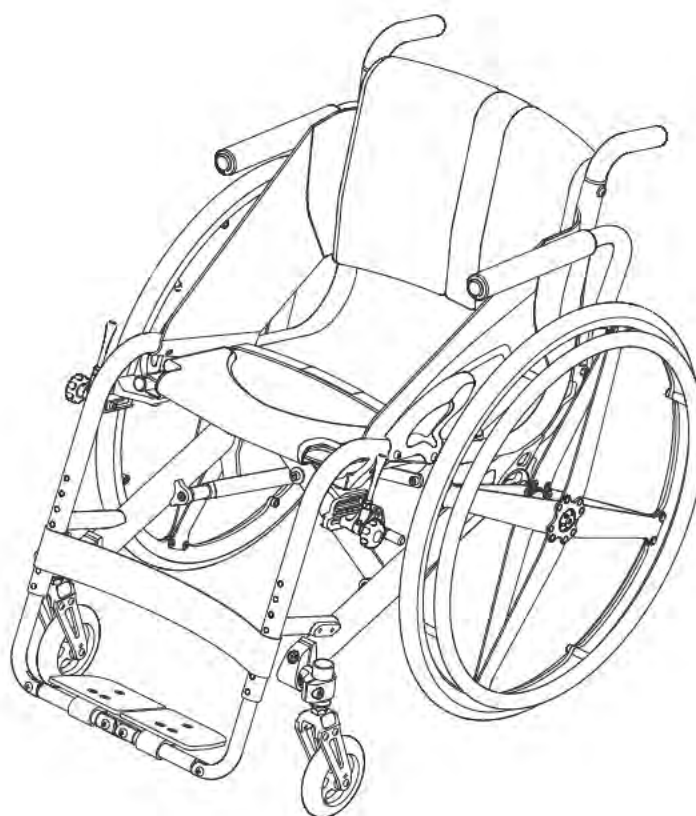
1ヵ月に1回を目安として、必ず次の点検を行ってください。
異常があった場合は、各部の調整を行ってください。
調整に不安がある方や、調整しても直らない場合はご使用を止め、販売店または当社営業所までご相談ください。
また、各部の調整を行った後も、必ず次の点検を行ってください。

- 全体的に極端に大きなガタつきはないか。
- ひび割れや変形している箇所はないか。
- ブレーキの動作に問題はないか。
- タイヤの空気圧は十分か。タイヤの溝は十分残っているか。
- レザーは自分の状態に最適な張り調整になっているか。
- キャスターやホイールに引っ掛かりや大きなブレなどの回転不良はないか。
- ネジ・ボルトの緩みはないか。

4章
その他

この章では、各車いすの仕様諸元とお客様
ご相談窓口のご案内を記載しています。

仕様諸元

お客様ご相談窓口のご案内

ZZR　仕様諸元（単位：mm）

L0	全長	フレーム長：ショート⇨799 / ロング⇨847
H0	全高	680
H2	前座高	シート奥行：350の場合 445 / 380の場合 450 / 420の場合 457
H3	後座高	385
L1	シート奥行	330~440
W1	シート幅	275~415（20㎜ピッチ）　※規格寸法は280~420（20㎜ピッチ）
W0	全幅	532
WH	折りたたみ幅長	315
H4	バックレスト高	バックレストタイプ：ロータイプ⇨300~350 / ミディアムタイプ⇨350~400 ハイタイプ⇨400~450 / スーパーハイタイプ⇨オプション　（10㎜ピッチ・可変）
θB	バックレスト角	85°~95°（無段階・可変）
L7	フットレスト長	フレーム長：ショート⇨340~440 / ロング⇨350~450　（10㎜ピッチ・可変）
D1	タイヤサイズ	25-540（外径：595㎜、リムサイズ：24×1-3/8、＊24インチ） 25-559（外径：６１５㎜、リムサイズ：26×1.50、＊２５インチ）
L8	車軸前後位置寸法	車軸タイプで 車軸Aを選択の場合　バックレストオフセット寸法：-20⇒50~10 / 0⇒70~30 / 20⇒90~50 車軸Bを選択の場合　バックレストオフセット寸法：-20⇒35 / 0⇒55 / 20⇒75
θCM	キャンバー角	車軸タイプ：車軸A⇨0°・-2° / 車軸B⇨0°
W2	ハンドリム取付間隔	5・10・15・20・25・30
D2	キャスターホイール径	LPC4（アルミコア）⇨80・95・105 / 樹脂コア⇨92・105
BL	ブレーキレバー長	55・75・110・140　（ホリゾンタルを除く）
AH	アームレスト高	オプション
	重量	フレーム長：ショート⇨10.2kg / ロング⇨10.3kg

※上記仕様諸元表で寸法等の記載の無いものは、次の仕様を元に算出しております。
フレーム：タイプⅢ＆ショート＆車軸A / シート幅：320㎜ / シート奥行：350㎜ / バックレスト高：300㎜ / バックレスト角：90° / フットレスト長：400㎜ / タイヤ：25-540（「MX4」595㎜） / 車軸前後位置寸法：50㎜ / キャンバー角：0° / ハンドリム取付間隔：10㎜ / キャスターフォーク：CZ1-Pro / キャスターホイール径：95㎜ / キャスターホルダー上下位置：下から3段目 / キャスターホイール取付穴：2穴の上穴 / フットレスト：プレートジョイントstd / オプション・アクセサリー：無し

SSR　仕様諸元（単位：mm）

記号	項目	仕様
L0	全長	フレーム長：ショート⇨799 / ロング⇨847
H0	全高	680
H2	前座高	シート奥行：350の場合 445 / 380の場合 450 / 420の場合 457
H3	後座高	385
L1	シート奥行	330~440
W1	シート幅	275~415（20㎜ピッチ）　※規格寸法は280~420（20㎜ピッチ）
W0	全幅	532
WH	折りたたみ幅	315
H4	バックレスト高	バックレストタイプ：ロータイプ⇨300~350 / ミディアムタイプ⇨350~400 ハイタイプ⇨400~450 / スーパーハイタイプ⇨オプション　（10㎜ピッチ・可変）
θB	バックレスト角	85°~95°（無段階可変）
L7	フットレスト長	フレーム長：ショート⇨340~440 / ロング⇨350~450　（10㎜ピッチ・可変）
D1	タイヤサイズ	25-540（外径：595㎜、リムサイズ：24×1-3/8、*24インチ） 25-559（外径：615㎜、リムサイズ：26×1.50、*25インチ）
L8	車軸前後位置寸法	車軸タイプで 車軸Aを選択の場合　バックレストオフセット寸法: -20⇒50~10 / 0⇒70~30 / 20⇒90~50 車軸Bを選択の場合　バックレストオフセット寸法: -20⇒35 / 0⇒55 / 20⇒75
θCM	キャンバー角	車軸タイプ：車軸A⇨0°・-2° / 車軸B⇨0°
W2	ハンドリム取付間隔	5・10・15・20・25・30
D2	キャスターホイール径	LPC4（アルミコア）⇨80・95・105・125 / 樹脂コア⇨92・105・127
BL	ブレーキレバー長	55・75・110・140　（ホリゾンタルを除く）
AH	アームレスト高	オプション
	重量	フレーム長：ショート⇨10.0kg / ロング⇨10.1kg

※上記仕様諸元表で寸法等の記載の無いものは、次の仕様を元に算出しております。
フレーム：タイプⅢ&ショート&車軸 A / シート幅：320 ㎜ / シート奥行：350 ㎜ / バックレスト高：300 ㎜ / バックレスト角：90° / フットレスト長：400 ㎜ / タイヤ：25-540(「MX4」595 ㎜) / 車軸前後位置寸法：50 ㎜ / キャンバー角：0° / ハンドリム取付間隔：10 ㎜ / キャスターフォーク：CZ1-Pro / キャスターホイール径：92 ㎜ / キャスターホルダー上下位置：下から２段目 / キャスターホイール取付穴：２穴の下穴 / フットレスト：プレートジョイント std / オプション・アクセサリー：無し

その他

SX 仕様諸元（単位：mm）		
L0	全長	フレーム長&フレーム高: ショート&レギュラー⇒810 / ショート&ハイ⇒808 / ショート&フラット⇒813 ロング&レギュラー⇒856 / ロング&ハイ⇒850 / ロング&フラット⇒863
H0	全高	フレーム高: レギュラー⇒654 / ハイ⇒682 / フラット⇒688
H2	前座高	フレーム高: レギュラー⇒432 / ハイ⇒447 / フラット⇒425
H3	後座高	フレーム高: レギュラー⇒359 / ハイ⇒385 / フラット⇒390
L1	シート奥行	350·380·420
W1	シート幅	275～415〔20㎜ピッチ〕＊規格寸法は280～420㎜〔20㎜ピッチ〕
W0	全幅	524
WH	折りたたみ幅	309
H4	バックレスト高	バックレストタイプ: ロータイプ⇒300～350 / ミディアムタイプ⇒350～400 ハイタイプ⇒400～450 / スーパーハイタイプ⇒オプション　〔10㎜ピッチ・可変〕
θB	バックレスト角	フレーム高: レギュラー⇒88° / ハイ⇒88° / フラット⇒90°
L7	フットレスト長	プレートジョイントstd、パイプジョイントstd、プレートセパレートstdの場合 フレーム長： ショート⇒325～415(385※) / ロング⇒335～425(395※)　〔10㎜ピッチ・可変〕　※フレーム高「フラット」の場合 プレートジョイントhi、プレートセパレートhiの場合 フレーム長： ショート⇒120～390 / ロング⇒130～400　〔10㎜ピッチ・可変〕
D1	タイヤ・ホイールサイズ	23-501（外径: 560㎜、リムサイズ: 22×1-1/4、＊22in） 25-520（外径: 580㎜、リムサイズ: 24×1-1/8、＊23in） 25-540（外径: 595㎜、リムサイズ: 24×1-3/8、＊24in）　※ブロックタイヤ装着時は、外径：610㎜ 25-559（外径: 615㎜、リムサイズ: 26×1.50、＊25in）
L8	車軸前後位置寸法	フレーム高: レギュラー⇒70～30 / ハイ⇒70～30 / フラット⇒50～10
θCM	キャンバー角	0°～2°
W2	ハンドリム取付間隔	5·10·15·20·25·30
D2	キャスターホイール径	LPC4（アルミコア）： 80・95・105・125 / 樹脂コア： 92・105・127
BL	ブレーキレバー長	55·75·110·140（ホリゾンタルを除く）
AH	アームレスト高	オプション
	重量	フレーム長： ショート⇒ 9.7kg / ロングフレーム： 9.8kg

※上記仕様諸元表は、次の仕様を元に算出しております。
シート幅：320㎜ / シート奥行：350㎜ / バックレスト高：300㎜ / フットレスト長：380㎜ / タイヤ：25-540(「AL-5」595㎜) / 車軸前後位置：50(30※)㎜ ※フレーム高がフラットの場合 / キャンバー角：0° / ハンドリム取付間隔：10㎜ / キャスターフォーク：CZ1-Std / キャスターホイール径：92㎜ / キャスターホルダー上下位置：下から5段目 / キャスターホイール取付穴：3穴の下穴 / フットレスト：パイプジョイントstd / オプション・アクセサリー：無し

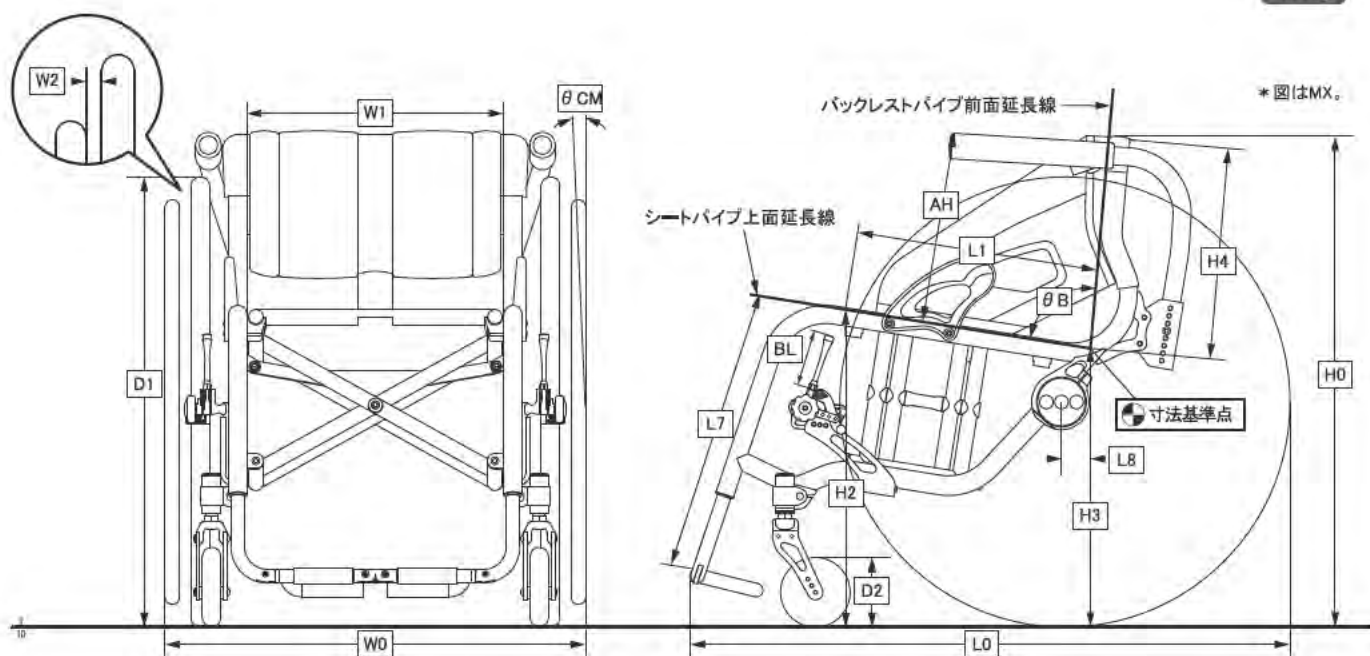
その他

SR 仕様諸元（単位：mm）		
L0	全長	フレーム長&フレーム高: ショート&レギュラー⇒810 / ショート&ハイ⇒808 / ショート&フラット⇒813 ロング&レギュラー⇒856 / ロング&ハイ⇒850 / ロング&フラット⇒863
H0	全高	フレーム高: レギュラー⇒654 / ハイ⇒682 / フラット⇒688
H2	前座高	フレーム高: レギュラー⇒432 / ハイ⇒447 / フラット⇒425
H3	後座高	フレーム高: レギュラー⇒359 / ハイ⇒385 / フラット⇒390
L1	シート奥行	350·380·420
W1	シート幅	275~415〔20㎜ピッチ〕＊規格寸法は280~420㎜〔20㎜ピッチ〕
W0	全幅	524
WH	折りたたみ幅	309
H4	バックレスト高	バックレストタイプ: ロータイプ⇒300~350 / ミディアムタイプ⇒350~400 ハイタイプ⇒400~450 / スーパーハイタイプ⇒オプション 〔10㎜ピッチ・可変〕
θB	バックレスト角	フレーム高: レギュラー⇒88° / ハイ⇒88° / フラット⇒90°
L7	フットレスト長	プレートジョイントstd、パイプジョイントstd、プレートセパレートstdの場合 フレーム長： ショート⇒325~415(385※) / ロング⇒335~425(395※) 〔10㎜ピッチ・可変〕 ※フレーム高「フラット」の場合 プレートジョイントhi、プレートセパレートhiの場合 フレーム長： ショート⇒120~390 / ロング⇒130~400 〔10㎜ピッチ・可変〕
D1	タイヤ・ホイールサイズ	23-501（外径: 560㎜、リムサイズ: 22×1-1/4、＊22in） 25-520（外径: 580㎜、リムサイズ: 24×1-1/8、＊23in） 25-540（外径: 595㎜、リムサイズ: 24×1-3/8、＊24in） ※ブロックタイヤ装着時は、外径：610㎜ 25-559（外径: 615㎜、リムサイズ: 26×1.50、＊25in）
L8	車軸前後位置寸法	フレーム高: レギュラー⇒70~30 / ハイ⇒70~30 / フラット⇒50~10
θCM	キャンバー角	0°~-2°
W2	ハンドリム取付間隔	5·10·15·20·25·30
D2	キャスターホイール径	LPC4（アルミコア）： 80・95・105・125 / 樹脂コア： 92・105・127
BL	ブレーキレバー長	55·75·110·140（ホリゾンタルを除く）
AH	アームレスト高	オプション
	重量	フレーム長： ショート⇒ 10.0kg / ロングフレーム ： 10.1kg

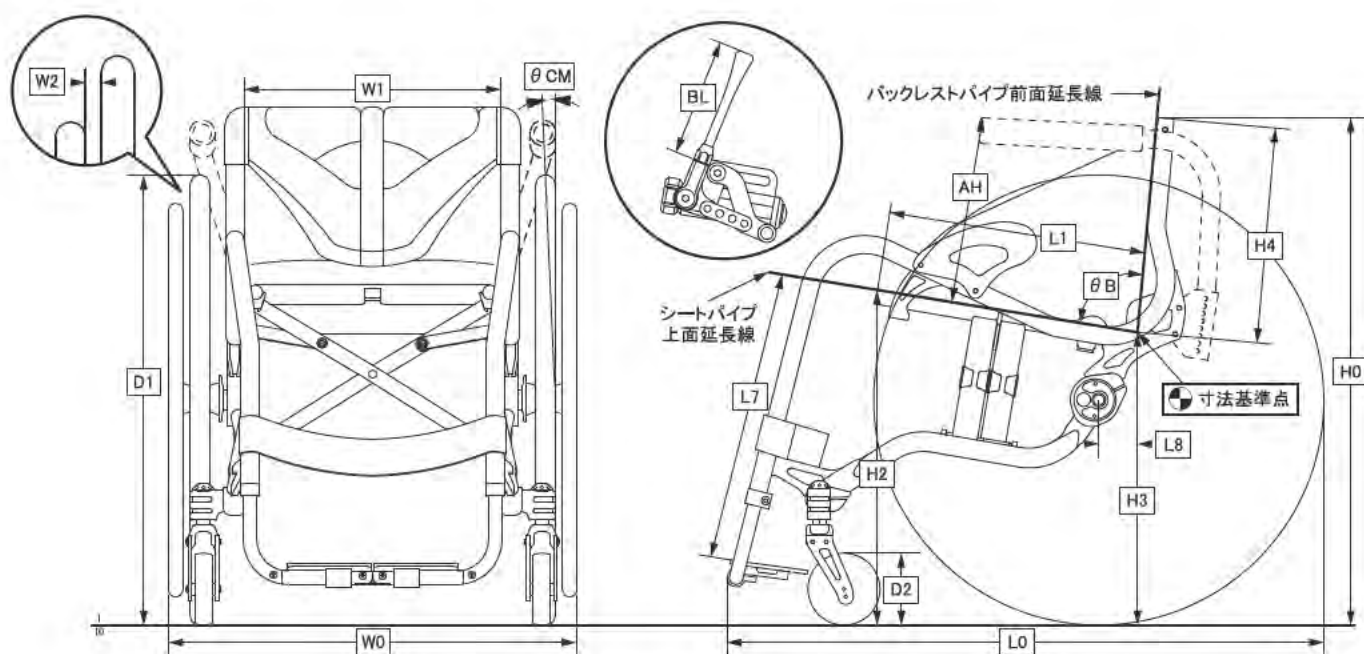
※上記仕様諸元表は、次の仕様を元に算出しております。
シート幅：320㎜ / シート奥行：350㎜ / バックレスト高：300㎜ / フットレスト長：380㎜ / タイヤ：25-540(「AL-5」595㎜) / 車軸前後位置：50(30※)㎜ ※フレーム高がフラットの場合 / キャンバー角：0° / ハンドリム取付間隔：10㎜ / キャスターフォーク：CZ1-Std / キャスターホイール径：92㎜ / キャスターホルダー上下位置：下から5段目 / キャスターホイール取付穴：3穴の下穴 / フットレスト：パイプジョイントstd / オプション・アクセサリー：無し

Mシリーズ　仕様諸元（単位：mm）

記号	項目	仕様
L0	全長	フレームサイズ： S、M⇨793 / L⇨845
H0	全高	フレームサイズ： S⇨658 / M⇨655 / L⇨675
H2	前座高	フレームサイズ： S、M⇨420 / L⇨445
H3	後座高	フレームサイズ： S⇨368 / M⇨365 / L⇨385
L1	シート奥行	フレームサイズ： S⇨330 / M⇨350・380 / L⇨380・420
W1	シート幅	275~415〔20㎜ピッチ〕　＊規格寸法は280~420㎜〔20㎜ピッチ〕
W0	全幅	528
WH	折りたたみ幅	315
H4	バックレスト高	ロー⇨280(290)~330 / ミディアム⇨330(340)~380 / ハイ⇨380(390)~430　(　)内は MR〔10㎜ピッチ・可変〕
θB	バックレスト角	86°
L7	フットレスト長	プレートジョイントｓｔｄ、パイプジョイントｓｔｄ、プレートセパレートstdの場合 フレームサイズ： S、M⇨290~380 / L⇨320~410　〔10㎜ピッチ・可変〕 プレートジョイントhi、プレートセパレートhiの場合 フレームサイズ： S、M⇨120~270 / L⇨150~300　〔10㎜ピッチ・可変〕 工場出荷時は仮止めです。
D1	タイヤサイズ	25-501（外径： 560㎜、リムサイズ： 22×1-1/4、＊22in） 25-520（外径： 580㎜、リムサイズ： 24×1-1/8、＊23in） 25-540（外径： 595㎜、リムサイズ： 24×1-3/8、＊24in）※ブロックタイヤ装着時は外径： 610㎜ 25-559（外径： 615㎜、リムサイズ： 26×1.50、＊25in）
L8	車軸前後位置寸法	フレームサイズ： S⇨60~20 / M、L⇨80~40
θCM	キャンバー角	0°・−2°
W2	ハンドリム取付間隔	5・10・15・20・25・30
D2	キャスターホイール径	樹脂コア（標準装備品）⇨92・105・127　/　LPC4⇨80・95・105・125
BL	ブレーキレバー長	55・75・110・140（ホリゾンタルを除く）
AH	アームレスト高	ロー⇨250~270 / ハイ⇨270~310　〔10㎜ピッチ・可変〕 ※MRを選択の場合 オプション
	重量	MXの場合 フレームサイズ： S、M⇨10.3kg / L⇨10.4kg MRの場合 フレームサイズ： S、M⇨9.8kg / L⇨9.9kg

※上記仕様諸元表は、次の仕様を元に算出しております。
シート幅：320㎜ / シート奥行：フレームサイズS⇨330㎜・M⇨350㎜・L⇨380㎜ / バックレスト高：290㎜ / フットレスト長：フレームサイズS、M⇨370㎜・L⇨400㎜ / ホイール：AL-5 / タイヤ：25-540（外径595㎜） / 車軸前後位置寸法：フレームサイズS⇨40㎜・M、L⇨60㎜ / キャンバー角：0° / ハンドリム取付間隔：10㎜ / キャスターフォーク：CZ1-Pro / キャスターホイール径：92㎜ / キャスターホルダー上下位置：下から1段目 / キャスターホイール取付穴：2穴の下穴 / ブレーキ：アウターノブ下付け / フットレスト：パイプジョイントstd / アームレスト：ロー（MXのみ） / オプション・アクセサリー：無し

GWXⅢ 仕様諸元（単位：mm）

L0	全長	フレーム長&フレーム高： ショート&レギュラー⇨795 / ロング&レギュラー⇨835 / ショート&ハイ⇨790 / ロング&ハイ⇨820
H0	全高	フレーム高： レギュラー⇨650 / ハイ⇨670
H2	前座高	シート奥行350の場合　フレーム高： レギュラー⇨425 / ハイ⇨443 シート奥行380の場合　フレーム高： レギュラー⇨430 / ハイ⇨448 シート奥行420の場合　フレーム高： レギュラー⇨435 / ハイ⇨454
H3	後座高	フレーム高： レギュラー⇨365 / ハイ⇨385
L1	シート奥行	350・380・420
W1	シート幅	315（275）～415（375）〔20㎜ピッチ〕　＊規格寸法は320（280）～420（380）㎜〔20㎜ピッチ〕　（ ）内はフットレスト幅
W0	全幅	530
WH	折りたたみ幅	340
H4	バックレスト高	バックレストタイプ： ロータイプ⇨280～330 / ミディアムタイプ⇨330～380 / ハイタイプ⇨380～430　〔10㎜ピッチ・可変〕
θB	バックレスト角	86°
L7	フットレスト長	フレーム高： レギュラー⇨310～400 / ハイ⇨330～420
D1	タイヤサイズ	25-540（外径： 595㎜、リムサイズ： 24×1-3/8、＊24インチ） 25-559（外径： 615㎜、リムサイズ： 26×1.50、＊25インチ）
L8	車軸前後位置寸法	70～40
θCM	キャンバー角	0°
W2	ハンドリム取付間隔	5・10・15・20・25・30
D2	キャスターホイール径	LPC4（アルミコア）⇨80・95・105 / 樹脂コア⇨92・105
BL	ブレーキレバー長	55・75・110・140（ホリゾンタルを除く）
AH	アームレスト高	寸法項目の「AH：アームレスト高」を参照
	重量	フレーム長&フレーム高： ショート&レギュラー⇨9.1kg / ショート&ハイ⇨9.2kg / ロング&レギュラー⇨9.2kg / ロング&ハイ⇨9.3kg

※上記仕様諸元表は、次の仕様を元に算出しております。
シート幅：320㎜ / シート奥行：350㎜ / バックレスト高：280㎜ / フットレスト長：フレーム長「ショート」の場合390㎜・「ロング」の場合400㎜ / ホイール：AL-5 / タイヤ：25-540（外径595㎜）/ 車軸前後位置寸法：50㎜ / ハンドリム取付間隔：10㎜ / キャスターフォーク：CZ1-Pro / キャスターホイール径：92㎜ / キャスターホルダー位置：標準位置 / キャスターホイール取付穴：2穴の上穴 / フットレスト：パイプジョイントstd / オプション・アクセサリー：無し

お客様ご相談窓口のご案内

《お客様ご相談窓口》

お買い上げいただきました当社の製品やサービスについてご質問・ご意見・ご要望などがございましたらご遠慮なくお寄せください。また、各種オプション・アクセサリーのお問い合わせもご遠慮なくお寄せください。

株式会社オーエックスエンジニアリング
営業部　お客様ご相談窓口
TEL 043-228-0777　FAX 043-228-3334

《アフターサービスの実施》

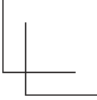
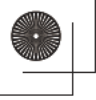
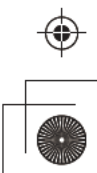
お買い上げいただきました販売店が点検・修理をはじめ、アフターサービスのご相談などをお受けいたします。

当社への部品のお問い合わせや、故障箇所をご説明いただくときなどは次の方法でお問い合わせください。

本書をお手元に用意していただき、巻末に記載されている取扱説明書NO.を確認して「ZZR/SSR/GWXⅢ/SR/SX/Mシリーズ取扱説明書○○年○月第○版の○○ページの、図○-○の、○○○」とご説明ください。
例）　27ページの、図2-6の「取付けボルト」
例）　41ページの、図2-30の「ボルト」

お問い合わせ先
株式会社 オーエックスエンジニアリング
営業部 お客様ご相談窓口
〒265-0043　千葉市若葉区中田町2186-1
TEL043-228-0777
FAX043-228-3334

《パンクでお急ぎの場合には》

お近くの自転車販売店に修理を依頼してください。

販売元
株式会社オーエックスエンジニアリング
〒265-0043 千葉市若葉区中田町2186-1
URL www.oxgroup.co.jp

不法廃棄はしないでください。

ZZR/SSR/GWXⅢ/SR/SX/Mシリーズ取扱説明書
2013年4月13版